

能越自動車道関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告

——NEJ-10・NEJ-11——

1999年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道は富山県西部及び石川県能登地域の高速交通体系の確立・地域の活性化をめざし、小矢部ジャンクションから高岡市を通過し石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所ではこの能越自動車道建設に伴い平成4年度から発掘調査・遺物整理の事業を実施いたしております。発掘調査事業は、今年度までに五社遺跡・開辟大滝遺跡・石名田木舟遺跡・地崎遺跡・蓑島遺跡・江尻遺跡・下老子笹川遺跡・近世北陸道遺跡の調査が終了しました。

本書は、高岡市国吉地内に所在するN E J - 10・N E J - 11埋蔵文化財包蔵地における遺跡範囲や遺存状況などを把握するために実施した発掘調査の結果を報告したものです。調査の結果、古代・中世の手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡の一部が確認されました。この調査の成果が、今後の遺跡の理解や研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査に当たり、格別のご協力とご配慮を頂いた関係各位に深く感謝の意を表するしだいです。

平成11年3月

財團法人富山県文化振興財團
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野真晃

例 言

1 本書は、平成10年度に高岡市国吉地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の試掘確認調査の報告である。

2 調査は、富山県教育委員会の決定に基づき、財團法人富山県文化振興財団が建設省北陸地方建設局からの委託を受けて実施した。

3 調査は、財團法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所調査第二課が実施した。調査員は次のとおりである。

調査第二課長狩野 瞳、同主任岡本淳一郎、島田美佐子、同文化財保護主事越前慎子、
山元祐人・中村亮仁・深堀 茂、柴口真澄・中野由紀子・町田賢一・上田尚美・新宅輝久
・平井晶子・金三津英則

5 発掘調査・資料整理・本書の作成には、下記の方々から様々な援助をいただいた。記して深甚なる謝意を表したい。(敬称略・五十音順)

安念幹倫・境洋子・斎藤隆・高岡市・高橋真実・橋本正春・山口辰一

6 本書の編集は岡本が担当し、執筆は調査第二課員の協力を得て岡本・深堀・中野・平井・松田隆二(株式会社古環境研究所)が行い、執筆分担を各文末に記した。

7 NE J-11のプラント・オパール分析は株式会社古環境研究所に依頼し、成果を得た。

8 出土遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目 次

序	(2) 基本層序.....	11
例言	(3) トレンチの調査状況.....	12
目次	(4) 出土遺物.....	16
I 位置と環境	(5) 小括.....	17
1 位置と環境.....	IV プラント・オパール分析.....	18
2 周辺の遺跡.....	1 はじめに.....	18
II 調査の経緯	2 試料.....	18
1 調査の契機と既往の調査.....	3 分析法.....	20
2 調査に至るまで.....	4 分析結果.....	20
III 調査の概要	5 考察.....	20
1 調査の方法.....	(1) 稲作の可能性について.....	20
2 調査の経過.....	(2) その他の農耕の可能性について.....	21
3 NE J-10の調査.....	6 まとめ.....	21
(1) 調査対象地.....	参考文献.....	22
(2) 基本層序.....	V 調査の成果と課題.....	31
(3) トレンチの調査状況.....	1 微地形と遺跡の立地.....	31
(4) 出土遺物.....	2 須加村墾田地と遺跡.....	32
(5) 小括.....	引用・参考文献.....	32
4 NE J-11の調査.....	写真図版	
(1) 調査対象地.....	報告書抄録	

図・表目次

第1図 調査地の位置.....	12図 分析試料採取地点位置図	19
第2図 調査対象地と周辺の遺跡.....	第6表 NE J-11のプラント・オパール	
第1表 調査対象地と周辺の遺跡一覧表.....	分析結果 (1)	23
第2表 既往の調査一覧.....	第7表 NE J-11のプラント・オパール	
第3図 能越自動車道と遺跡の位置.....	分析結果 (2)	24
第4図 NE J-10基本層序模式図.....	第13図 プラント・オパール分析結果 (1)	25
第3表 NE J-10基本層序観察表.....	第14図 プラント・オパール分析結果 (2)	26
第5図 NE J-10トレンチの位置.....	第15図 プラント・オパール分析結果 (3)	27
第6図 NE J-10遺構概略図.....	第16図 プラント・オパール分析結果 (4)	28
第7図 NE J-10出土遺物.....	第17図 プラント・オパール分析結果 (5)	29
第8図 NE J-11基本層序模式図.....	第8表 各地点における稲作跡の可能性	30
第4表 NE J-11基本層序観察表.....	第18図 NE J-10・NE J-11	
第9図 NE J-11トレンチの位置.....	周辺微地形図.....	31
第10図 NE J-11遺構概略図	第19図 NE J-10・NE J-11	
第11図 NE J-11出土遺物実測図	と須加村墾田地.....	32
第5表 分析試料一覧		

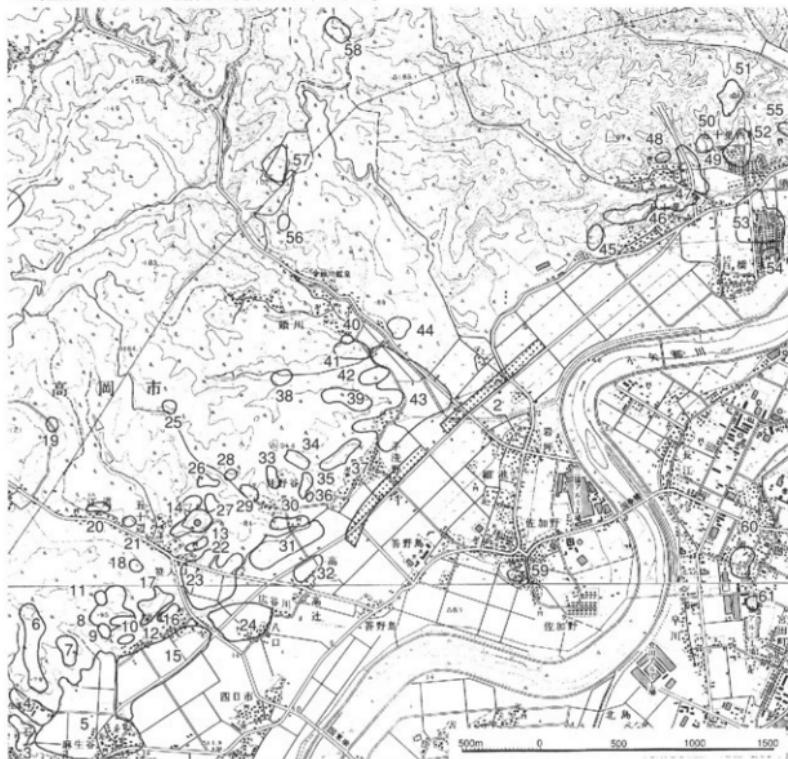
I 位置と環境

1 位置と地形 (図版1・2)

NE J-10・NE J-11は能越自動車道路線内の高岡市国吉地区内に確認された埋蔵文化財包蔵地である。高岡市は県西部に位置し、市域の西端は西山丘陵がありその東に小矢部川と庄川が北流し富山湾に注いでいる。国吉地区はこの西山丘陵と小矢部川に挟まれた部分にあたる。調査対象地は、そのほとんどが小矢部川低地と呼ばれる氾濫平野で一部旧河道と西山丘陵からのびる台地がある。小矢部川は砺波平野・射水平野などの穀倉地帯を流れるため物資輸送の動脈としての役割をはたしていた。しかし一方、国吉地区は小矢部川の度重なる洪水で損害も受けた。このことが昭和26年撮影の航空写真 (図版2) で旧河道以外に幾筋の川跡の痕跡と思われる地割りが見られることでも容易に理解できる。現在は昭和40年代に施工された堤防整備によりこの地割りは見られなくなった。



第1図 調査地の位置



第2図 調査対象地と周辺の遺跡 ([県埋文センター1993] をトレイス改変)

2 周辺の遺跡（第2図・第1表）

調査対象地周辺の小矢部川左岸は第1図のとおり多くの遺跡が密集する地域である。時代は縄文時代から中世にいたる〔大野編1985・山口1988〕。地形的には丘陵と台地上に多く位置し、調査対象地の人半を占める低地では希薄な分布である。次に時代ごとに周辺の遺跡を見ておく。

弥生時代 間尽遺跡（43、旧頭川遺跡）はN E J-11西側の丘陵裾の台地上に位置し、東日本系の天王山式上器を多量に出土した〔上野1974〕特異な遺跡として著名である。

古墳時代 丘陵上に古墳・横穴墓が数多く存在する。古墳は調査地の近隣でも倉谷古墳群（37）・立山古墳群（30）・四十九古墳群（39）・安居山古墳群（42）等が立地する。横穴墓では頭川城ヶ平横穴墓群（44）・江道横穴墓群（20）があり両横穴墓群とも発掘調査が行われた〔高瀬1957、酒井他1983・1984〕。集落は麻生谷新生園遺跡（4）で堅穴住居が発掘された〔山口他1997〕。

古代 遺跡は台地上を中心に分布する。麻生谷新生園遺跡（4）では石敷きの道路が検出され古代北陸道の一部と推定されている〔山口他1998〕。集落は麻生谷遺跡（5）・柴野遺跡（15）で発掘されている。麻生谷遺跡は、古代北陸道「川人駅」に関係するとされる〔山口他1997〕。遺跡以外でも、東大寺領莊園園にみられる「須加村墾田地」の比定地がN E J-11に含まれる。

中世 丘陵上・台地上に山城・寺院が立地する。調査地の隣接には安居山城跡（42）・笹八口砦跡（13）、积迦堂遺跡（14、寺院）がある。調査地隣接の集落は手洗野に現在もある信光寺（県内最古の曹洞宗寺院）が1323年創建され〔京谷編1966〕、岩坪でも中世には岩坪保が成立したとされる。

近世 遺跡としての分布はない。しかし、北陸街道の脇往還として「水見往来」が通り、佐加野には「佐加野駅」が置かれ重要な交通の要衝であった。

以上のように、当地域は永きに亘って、有力な経済基盤が存在し、交通の要衝地として位置づけられてきたといえる。しかし「須加村墾田地」を初めとして古代以前の低地部の利用状況は不明で、その解明は今後の課題である。

番号	名 称	地図番号	種 別	時 代	番号	名 称	地図番号	種 別	時 代
1	N E J-10	202232	散布地		33	道ケ谷内丘山壙群	202063	古墳	
2	N E J-11	202233	散布地		34	道ケ谷内II古墳群	202064	古墳	
3	心堤柏堂古墳	202055	古墳		35	道ケ谷内I古墳群	202065	古墳	
4	麻生谷新生園遺跡	202036	集落	彌生・古墳～中世	36	道ケ谷内通溝跡	202066	散在地	中世
5	麻生谷遺跡	202037	集落	古墳～中世	37	倉谷古墳群	202067	古墳	古墳
6	麻生谷殿谷内城跡	202038	山城	中世	38	逸ヶ谷内II遺跡	202068	散在地	奈良・平安？
7	麻生谷殿谷内古墳群	202039	古墳		39	四十九古墳群	202069	古墳	古墳
8	柴野城ヶ平城跡	202040	山城	中世	40	頭川古墳群	202070	墓	
9	柴野口削II古酒跡	202041	古墳		41	逸ヶ谷内I遺跡	202071	散在地	彌文・奈良～中世
10	柴野口削II古酒跡	202042	古墳		42	安岡山古墳群・安延	202072	古墳・山城	古墳・中世
11	柴野口削III古墳群	202043	古墳		43	山城跡			
12	柴野口削III古墳群	202044	古墳		43	間戸遺跡	202073	集落	彌生・古墳～中世
13	笹八口砦跡	202199	山城		44	頭川城ヶ平塚六古墳群	202174	横穴	
14	积迦堂遺跡	202200	寺院	中世	45	板屋谷内C古墳群	202275	古墳	
15	柴野遺跡	202045	散布地	古墳～中世	46	板屋谷内B古墳群	202076	古墳	古墳
16	柴野高の官城跡	202046	山城	中世	47	板屋谷内A古墳群	202077	古墳	古墳
17	柴野口青苔遺跡	202047	寺院	奈良～中世	48	五十里横穴墓	202078	横穴	古墳
18	柴野春日古墳群	202048	古墳		49	五十里乙西遺跡	202079	散在地	彌生・小豆～中世
19	境久寺遺跡	202049	散布地	中世	50	五十里追神社内古墳群	202080	古墳・墓	古墳・中世？
20	江道横穴墓群	202050	横穴	古墳	51	五十里古墳群・五十	202081	古墳・山城	古墳・中世
21	円通庵遺跡	202051	寺院	中世	甲遺跡				
22	笹八口古墳群遺跡	202052	古墳		52	五十里道盛遺跡	202082	散在地	奈良・平安
23	笹八口遺跡	202053	散布地	古墳～中世	53	須田緑の木遺跡	202083	集落	古墳・奈良
24	八口塙跡	202054	散布地	奈良～中世	54	百荷谷山遺跡	202084	散布地	彌文(後・晩)
25	月野谷石飛遺跡	202055	散布地		55	須田不動谷内古墳群	202085	古墳	古墳
26	积迦堂古墳群	202056	古墳		56	頭川山中遺跡	202081	散在地	彌文(中)
27	男接古墳群	202057	古墳		57	頭川オスキ・院遺跡	202030	散在地	彌文(中)
28	月野谷千草遺跡	202058	散布地	弥生	58	仲代テラヤシキ遺跡	201584	寺院	中世
29	月野谷大谷内遺跡	202059	散布地	古墳	59	佐加野ラントウ遺跡	202027	散在地	中世
30	箕谷古墳群	202060	古墳		60	早川遺跡	202154	散在地	弥生～平安
31	洪田遺跡	202061	散布地	弥生・奈良～中世	61	浜川遺跡	202155	散布地	弥生～平安
32	高辻遺跡	202062	散布地	奈良～中世					

第1表 調査対象と周辺の遺跡一覧表（番号は第2図に対応）

II 調査の経緯

1 調査の契機と既往の調査（第3図・第2表）

能越自動車道は、富山県西部・能登地域と三大都市圏の高速交通体系の確立及び地域の活性化のため高規格幹線道路網計画の一環として、北陸自動車道・東海北陸自動車と小矢部ジャンクションで接続する路線として計画された。平成2年4月、この工事構想・計画が建設省から県教育委員会に照会された。これを受け、関係の建設省富山工事事務所・県教育委員会・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定された。また、平成4年度からは当調査事務所が建設省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越道関係の調査は、第2表のとおり分布調査が県教育委員会・試掘調査が地元市教育委員会及び当財團・本発掘調査は当財團が主体となり平成2年度から継続して実施されている。

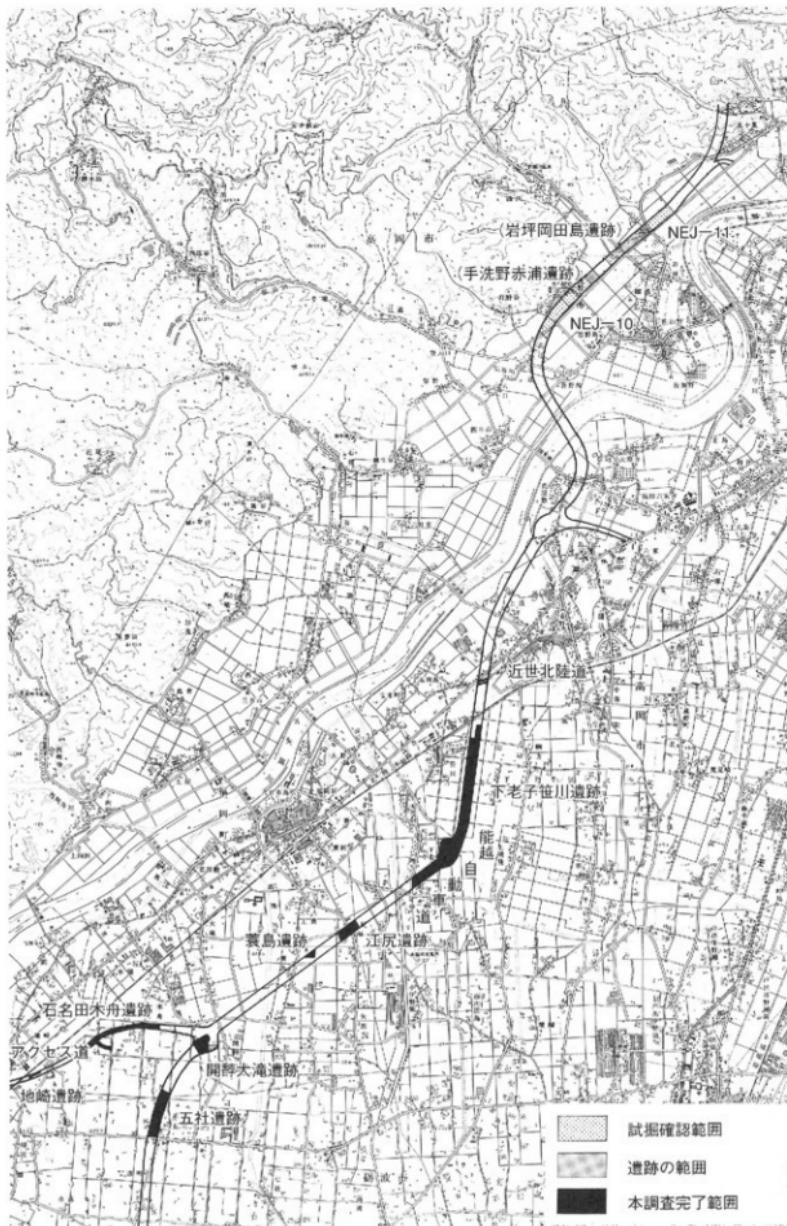
2 調査に至るまで

平成9年3月4日、県埋蔵文化財センターにより高岡IC～高岡北IC間の分布調査が実施された。その結果、3箇所の埋蔵文化財包蔵地が新たに確認され、それぞれNEJ-10・NEJ-11・NEJ-12と設定された。

平成10年10月13日、建設省・高岡市から用地買収が完了したNEJ-10・NEJ-11について試掘確認調査実施の要望が上げられた。同10月26日、関係の建設省富山工事事務所・県道路課・県教育委員会文化課・県埋蔵文化財センター・高岡市能越道対策課・当調査事務所で調査実施に関し協議を行い、今回の調査に至った。

年度	高査対象地	調査種類	調査主体	調査面積 (m ²)	調査期間	調査結果
平成2	小矢部市域(本線・アクセス道)	分布	県教委	408,000	4/17～4/18	NEJ-01～04, NEJ-A-01・02 を設定
	NEJ-01	試掘確認	小矢部市教委	271(対象5,600)	11/1～11/2	西跡なし
	NEJ-02			237(対象8,000)	11/1～11/5	西跡なし
	NEJ-03			1,184(対象16,800)	11/2～11/8	西跡なし
	NEJ-04			2,977(対象67,000)	11/6～12/5	五社遺跡を設定
	NEJ-A-01			1,462(対象25,200)	11/27～12/13	石名田遺跡を設定
	NEJ-A-02			1,049(対象19,800)	11/30～12/21	地崎遺跡を設定
平成3	高岡町域(本線・アクセス道)	分布	県教委	290,000	12/3	NEJ-05～07, NEJ-A-03・04 を設定
平成4	NEJ-A-03	試掘確認	財团	2,100(対象32,600)	1/16～7/1	石名田遺跡に遷移、石名田木舟遺跡に設定
	NEJ-A-04			900(対象19,400)	6/15～6/16	西跡なし
	NEJ-05			4,600(対象78,400)	6/19～7/7	開町大滝遺跡を設定
	NEJ-06			2,900(対象72,500)	6/17～6/29	江戸追跡、養島遺跡を設定
	NEJ-07			4,900(対象74,800)	6/16～17	下老子遺跡を設定
	五社遺跡	本発掘		38,100	7/20～12/26	中世と古代の集落を調査
	高岡市兼川用田内(木舟)	分布	県教委	76,800	3/22	NEJ-08を設定
平成5	五社遺跡	本発掘	財团	6,209	4/19～12/8	古墳時代と古代の集落の調査
	地崎遺跡			1,636	5/11～12/15	近世の集落調査
	開町大滝遺跡			25,163	5/19～12/21	中世の集落を調査
	石名田木舟遺跡			14,493	5/11～12/15	古代と中世の集落を調査
	高岡市上野地内ほか(本線)	分布	県教委	67,200	3/30	近世北陸道
平成6	石名田木舟遺跡	本発掘	財团	40,781	5/18～1/19	古代と中世の集落を調査
	五社遺跡			6,990	5/18～10/25	古代と中世の集落を調査
	NEJ-08	試掘確認	財团	3,800(対象76,800)	6/6～7/4	下老子遺跡に接続、下老子兼川遺跡を設定
平成7	石名田木舟遺跡	本発掘	財团	2,050	5/17～7/25	中近世の集落を調査
	養島遺跡			3,476	5/18～8/11	織文・古墳、近世の集落
	江戸追跡			10,602	5/19～12/18	柴生・中近世と近代の集落
	下老子兼川遺跡			9,994	5/25～12/11	近世の集落を調査
平成8	下老子兼川遺跡	本発掘	財团	34,700	5/13～12/24	柴生・中近世の集落を調査
	H-S-01	試掘確認	高岡市教委	8,628(対象78,000)	7/15～10/14	西跡なし
平成9	下老子兼川遺跡	本発掘	財团	52,730	5/13～12/19	織文と柴生から近世の集落を調査
	高岡市荒原城～五十里塙内(木線)	分布	県教委	230,000	3/4	NEJ-10・11・12を設定
平成10	下老子兼川遺跡	本発掘	財团	33,872	5/26～11/30	織文と古代・中近世の集落の調査
	近世北陸道	試掘確認		111(対象2,000)	6/1	近世北陸道を確認
	近世北陸道	本発掘		489	6/10～6/30	近世北陸道の構造を調査

第2表 既往の調査一覧



第3図 能越自動車道と遺跡の位置

III 調査の概要

1 調査の方法

調査は幅約1.8m・長さ約5~50mの試掘溝（以下トレンチ・Tとする）をNEJ-10で56箇所、NEJ-11で62箇所設定した。それを重機（バックホウ）及び人力により表土から地山面または遺構面と推定される面まで掘り下げ、遺構および遺物の遺存状況を確認した。また部分的に下層の状況の確認のため深掘りを行った。各トレンチ掘削作業終了後、トレンチの平面概略図（1：100）と断面図（垂直1：20、水平1：100）の図化作業及び写真撮影作業を実施した。

東大寺領莊園「須加村墾田地」比定箇所が含まれるNEJ-11では水田立地が想定されることから、プラントオパール分析を28地点で実施した。分析の詳細な結果は「IV」に記述してある。

2 調査の経過

調査期間は、NEJ-10が平成10年11月24日から同年12月8日、NEJ-11が平成10年11月9日から同年12月12日である。

調査の主な経過は次の通りである。11月4日、全トレンチ設定。11月6日、全トレンチ現況高検査。11月9日、NEJ-11調査開始。11月24日、NEJ-10調査開始。12月8日、NEJ-10調査終了。12月10日、NEJ-11プラントオパール分析資料採取。12月12日、NEJ-11調査終了。12月15日、完了検査実施。
(岡本)

3 NEJ-10の調査

(1) 調査対象地

調査対象地は高岡市国吉(手洗野)地内に位置し、延長約760m・幅約60m、面積約45,600m²である。西側約300mに西山丘陵、東側約800mに小矢部川が存在する。現況は水田・畑地・宅地である。現在の標高は南で約8m、北で約7mとなっており、北に向かって低くなっていることがわかる。また40トレンチ周辺は微高地になっている。

試掘トレンチは南側より1トレンチとし、計56トレンチを設定した。
(中野)

(2) 基本層序 (第4図・第3表)

I a層は現代の耕作土である。ほぼ全域に広がり、厚さは5~50cmである。

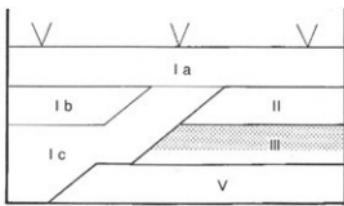
I b層は現代の水田床上である。ほぼ全域に広がり、厚さは22~80cmである。炭粒が混入する。

I c層は近世以降の旧河川堆積土で、主に灰色もしくは暗黄灰色粘土質ロームなどに灰色の砂・炭粒が混入していた。T 1からT 52に分布し、厚さは浅いところ(T 41~T 52)で20~50cm、深いところ(T 1~T 40)では1.2m以上になる。

II層は中世の遺物包含層である。主に褐色シルト・暗灰黄色粘土質ロームで、炭粒が混入していた。T 53からT 56に分布し、厚さは40~50cmである。この層の中ほどで、噴砂が水平方向に堆積するところがある。

III層は中世の遺構検出面である。主に灰色砂質ロームで、II層と同じくT 53からT 56に分布し、深さは40cmである。

V層はI c層の浅いところの直下にあり、T 41からT 48が灰色シルト質ローム、T 48からT 52が疊である。
(深堀)



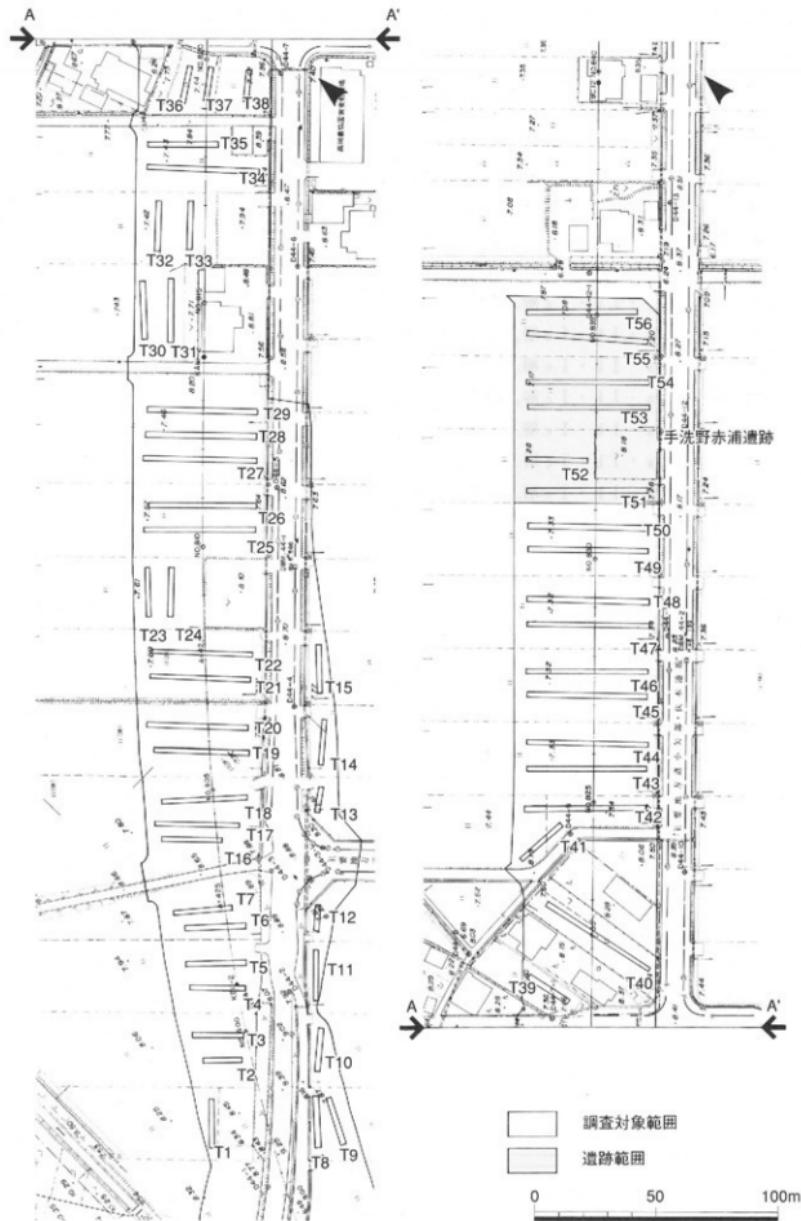
第4図 NEJ-10基本層序模式図

(3) レンチの調査状況

- T 1 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 2 層序は I a · I b · I c 層。I b 層にコンクリートブロックが入っている。遺構・遺物なし。
- T 3 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 4 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 5 層序は I a · I b · I c 層。I b 層にコンクリートブロックが入っている。遺構・遺物なし。
- T 6 層序は I a · I b · I c 层。遺構・遺物なし。
- T 7 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 8 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 9 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 10 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 11 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 12 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 13 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 14 層序は I a · I b · I c 層。I b 層の間から近代の溝を検出した。
- T 15 層序は I a · I b · I c 層。I b 層の間から近代の溝を検出した。
- T 16 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I b 層から近代陶器が出土。
- T 17 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I b 層から近代磁器、I c 層から越中瀬戸が出土。
- T 18 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I b 層から近代陶器が出土。
- T 19 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 20 層序は I a · I b · I c 層。I b 層の間から近代の溝を検出した。
- T 21 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I c 層から珠洲が出土。

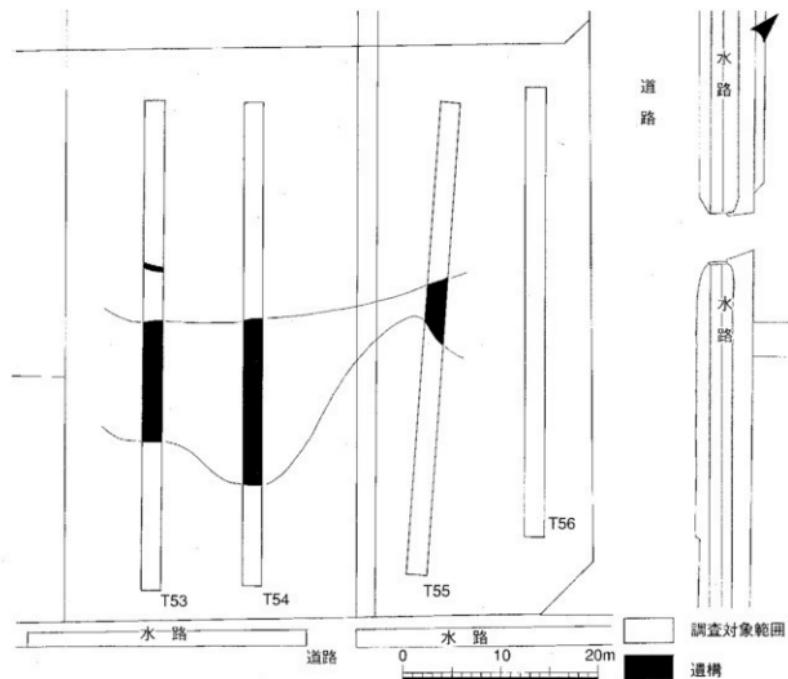
層序・分名	土色・質	性質	層序・分名	土色・質			性質
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
I a 全域	堆オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 堆灰黄色 (2.5Y4/2)	粘土質ローム シルト	現代 耕作土	Ⅰ TS6	堆灰黄色 (2.5Y4/2) 同 (2.5Y4/2)	(2.5Y4/2) 粘土質ローム シルト	砂質ローム シルト 粘土質ローム
	同	粘土質ローム シルト				(2.5Y4/2)	
	黄褐色 (2.5Y4/2)	シルト				(2.5Y5/1)- (2.5Y4/1)	
	同	シルト				(2.5Y5/1)	
	同	シルト				(2.5Y5/1)	
	堆灰褐色 (2.5Y5/1)- (2.5Y4/1)	粘土質ローム シルト				褐色 (10YR4/7)	
	同	シルト				同 (10YR4/7)	
	堆灰褐色 (2.5Y4/3)	粘土質ローム シルト				同 (10YR4/7)	
	同	シルト				粘土質ローム (SY5/1)	
	赤褐色 (10YR4/2)	シルト				紅色 (SY5/1)	
I b T1 ~ T40	堆灰褐色 (2.5Y5/1)- (2.5Y4/2)	シルト	現代 水田底土	Ⅲ TS6	堆灰褐色 (2.5Y5/1) 同 (SY5/1)	砂 砂質ローム (SY5/1)	中世 遺構面
	堆灰褐色 (2.5Y5/1)- (2.5Y4/1)	粘土質ローム シルト				(SY4/1)	
	堆灰褐色 (2.5Y5/1)	シルト				シルト質ローム (SY4/1)	
	同	シルト				(SY4/1)	
	同	シルト				シルト質ローム (SY4/1)	
	黑褐色 (2.5Y3/2)	シルト質ローム シルト				シルト質ローム (SY5/1)	
	同	シルト				同 (SY5/1)	
	同	シルト				同 (SY5/1)	
	同	シルト				粘土質ローム (SY5/1)	
	同	シルト				砂質ローム (SY5/1)	
I c T1 ~ T52	堆オリーブ灰褐色 (2.5Y3/1)	砂	田川川 堆積土	Ⅳ T4 ~ TS6	同 (SY5/1)	砂	地山
	堆灰黄色 (2.5Y5/2)	シルト				砂質ローム (SY5/1)	
	同	粘土質ローム シルト				シルト	
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					
	同	砂質ローム シルト					

第3表 N E J-10基本層序観察表



第5図 N E J-10 トレンチの位置 (1 : 2,000)

- T 22 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I b 層から近世陶磁器・珠洲、I c 層から土師器が出土。
- T 23 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 24 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 25 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 26 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I a 層から越中瀬戸が出土。
- T 27 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。暗渠の埋土から近世陶磁器が出土。
- T 28 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 29 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 30 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 31 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 32 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 33 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I 層から近世陶器が出土。
- T 34 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 35 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I 層から肥前系磁器が出上。
- T 36 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 37 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。



第6図 N E J-10 遺構概略図 (1:500)

- T 38 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 39 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 40 層序は I a · I b · I c 層。遺構・遺物なし。
- T 41 層序は I a · I b · I c · V 層。埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。
- T 42 層序は I a · I c · V 層。2本の埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。I c 層から珠洲・土師器、排土から須恵器が出土。
- T 43 層序は I a · I b · I c · V 層。2本の埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。
- T 44 層序は I a · I c · V 層。2本の埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。
- T 45 層序は I a · I b · I c 層。遺構なし。I c 層から土師器が出土。
- T 46 層序は I a · I c 層。遺構なし。I c 層から上師器が出土。
- T 47 層序は I a · I c · V 層。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。I c 層から上師器が出土。
- T 48 層序は I a · I c · V 層(疊)。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。I 層から近世陶磁器が出土。
- T 49 層序は I a · I c · V 層(疊)。埋没旧河道の肩を確認。遺構・遺物なし。
- T 50 層序は I a · I c · V 層(疊)。埋没旧河道の肩を確認。遺構なし。I 層から越中瀬戸が出土。
- T 51 層序は I a · I c · V 層(疊)。遺構・遺物なし。
- T 52 層序は I a · I c · V 層(疊)。遺構・遺物なし。
- T 53 層序は I a · II · III 層。I a 層に擾乱がある。III層面で溝2条を検出。一条は東西に流れる幅約0.5mの溝で中世土師器2枚が隣接して出土。もう一条は南北に流れる幅約12.5mの溝でT 54・55の溝とつながる。I a 層から近世陶磁器、II層から中世土師器・珠洲・銅錢が出土。銅錢は赤錆のため枚数・種類が確認できなかったが、周囲の土が黒く腐食しており、容器に納められていたものと考えられる。
- T 54 層序は I · II · III 層。III層面より幅約17mの溝1条を検出。T 53・55の溝とつながる。II層から中世土師器・珠洲・土錘が出土。
- T 55 層序は I · II · III 層。III層面より幅約7mの溝1条を検出。T 53・54の溝とつながる。溝直上から銅錢10枚が出土。T 53の銅錢の出土状況と同様で、容器に納められていたものと考えられる。
- T 56 層序は I · II · III 層。II層に擾乱がある。遺構・遺物なし。 (深層)

(4) 出土遺物 (第7図・写真図版6)

遺物の出土量は全体的に少なく、岡化可能な遺物の多くがT 52~55で出土しており、埋没旧河道であるT 1~50での出土はあまりない。また、包含層(II層)・遺構内からの出土は少なく、耕作上(I a · b層)・旧河川堆積土(I c層)からの出土が多い。ほとんどが近世(1~4)・中世(5~17)に属する遺物で、わずかに古代のものが出土している。

近世 1・2は肥前陶器で陶胎染付椀である。時期は17世紀後半から18世紀にかけてのものである〔大橋1988〕。1は二次被熱を受けて釉薙がとんでいる。1はT 14、2はT 29の包含層より出土。

3・4は越中瀬戸である。3は天目茶碗で内外面に鉄釉が施されている。高台は削り出しとなる。T 17の包含層より出土。4は皿で、口縁部内外面に灰釉が施される。口径13.6cmを計る。T 50の包含層出土。

その他、肥前陶磁器、越中丸山などや時期不明の陶磁器が少量出土している。

中世 5~9は中世土師器である。5~7はロクロ成形で、13世紀後半から14世紀頃〔越前1996〕のものと考えられる。5は口径9.9cm、器高1.95cm、底径5.15cmを計る。6は口径10.2cm、器高2

cm、底径6.9cmを計る。7は口径10cm、器高2.2cm、底径4.65cmを計る。ともに体部は丸みを帯びて立ち上がり、底部には回転糸切り痕がある。T 53よりほぼ完形で出土しており、5は包含層、6・7は遺構内より隣接して出土した。8・9は非クロア成形で、13～14世紀頃〔越前1996〕のものと考えられる。8は口径8.8cmを計り、調整は磨滅が甚だしく不明である。T 53の包含層より出土。9は口径11.8cmを計り、調整は口縁部にヨコナデ、内面見込みに一方向のナデが施される。T 54の包含層より出土。

10は珠洲の甕である。T 54の包含層より出土。珠洲Ⅲ・Ⅳ期（13世紀中頃から14世紀後半）〔吉岡1994〕の時期に属する。

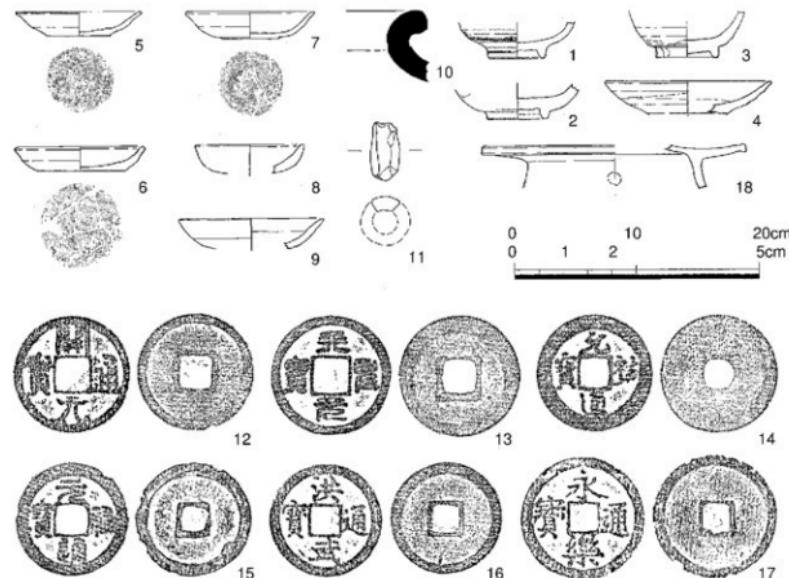
11は土鉢の破片である。T 54の包含層より出土。

12～17は銅鏡である。T 55の遺構直上より出土。合計10枚（開元通寶1・天聖通寶1・元祐通寶3・洪武通寶2・永樂通寶2・判読不能1）が容器に納められ、一括で出土している。12は開元通寶（唐・621年初鋤）である。13は天聖元寶（北宋・1023年初鋤）の篆書である。14・15は元祐通寶（北宋・1086年初鋤）で、14は行書、15は篆書である。16は洪武通寶（明・1368年初鋤）である。17は永樂通寶（明・1408年初鋤）である〔永井1994〕。すべて背面は無文である。

18は土師器の台付皿もしくは盤になる。口径は21.2cmを計る。時期は不明。T 47の包含層より出土。

その他、古代では須恵器の体部破片が1点のみ出土しているが、器種は不明である。（平井）
(5) 小括

T 1～50は埋没旧河道となり、T 41～44、T 47～50で河道の肩を確認した。地表から最大2m掘り下げるでも底面の確認はできなかった。また、試掘調査対象地の北側は標高が低く、この部分も埋没旧河道になると考えられる。



第7図 NEJ-10出土遺物実測図 (1～11・18 1:4, 12～17 1:1)

遺構はT 53～55にかけて幅約7～17mの溝1条と、T 53で幅約0.5mの溝1条をⅢ層上面で検出した。

遺物は主に中・近世に属するものが出土している。出土量は全体的に少ないが、T 50～55から中世に属するものが比較的多く出土している。ほとんどが包含層（Ⅱ層）の出土となるが、遺構内からの出土は2枚の中世土器（13世紀後半から14世紀）がある。

以上、出土土器・遺構の検出状況から遺跡は、中世の集落の縁辺部に当たると考えられる。遺跡の時期は包含層・遺構内出土の土器から13世紀から15世紀頃と推定できる。遺跡範囲はT 51～56を含む2本の埋没旧河道に挟まれた部分である。延長約84m・幅60mの約5,040m²となる。遺跡の名称はN E J-10を改め、付近の字名を探り新規に手洗野赤浦遺跡とした。
(平井)

4 N E J-11の調査

(1) 調査対象地

調査対象地は高岡市国吉（岩坪）地内に位置し、延長約780m・幅約60m、面積約46,800m²である。西側約500mに西山丘陵、東側約700mに小矢部川が存在する。N E J-10の北端からは約175m離れる。東大寺領莊園「須加村塩田地」比定箇所が含まれる。現況は水田・畑地である。現在の標高は南で約7.6m、北で約5.6mとなる。42トレンチ以北は大きく下がり、南側との比高差は約2mとなる。また中央部は段丘が張り出し、標高約9m、東側水田面との比高差は約1.5mである。

試掘トレンチは南側よりIトレンチとし、計62トレンチを設定した。
(中野)

(2) 基本層序 (第8図・第4表)

I a層は現代の耕作土である。ほぼ全域に広がり、厚さは8～25cmである。

I b層は現代の水田床土である。ほぼ全域に広がり、厚さは10～85cmである。

I c層は近世以降の旧河川堆積土である。T 1からT 11、T 13・14に分布し、厚さは深いところで155cm以上である。T 11～15では、埋没旧河道の肩を検出している。

II a層は無遺物層である。T 44からT 62に分布し、厚さは15～30cmである。この層の中ほどで、噴砂が水平方向に堆積するところがある。

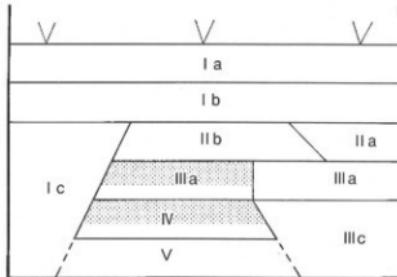
II b層は中世の遺物包含層である。主に灰色粘土質ロームで炭粒が混入している。T 12からT 43にかけて分布し、厚さは10～42cmである。

III a層上面は中世の遺構検出面である。黄灰色もしくは暗灰黄色粘土質ロームで、炭粒が混入し、植栽痕が観察できた。また、この層は古代の遺物包含層でもある。T 17からT 35にかけて分布し、厚さは10～30cmである。

III b層は無遺物層である。灰色シルトで、植栽痕が観察できた。T 36からT 53にかけて分布し、厚さは20～65cmである。この層の上面で、噴砂が水平方向に堆積するところがある。

III c層もI c層同様に旧河川堆積土で、T 42からT 62まで分布し、厚さは60cm以上である。

IV層は古代の遺構検出面である。暗灰黄色シルトもしくは灰黄色粘土質ロームで、T 11からT 34にかけて分布しており、厚さは15～50cmである。



第8図 N E J-11基本層序模式図

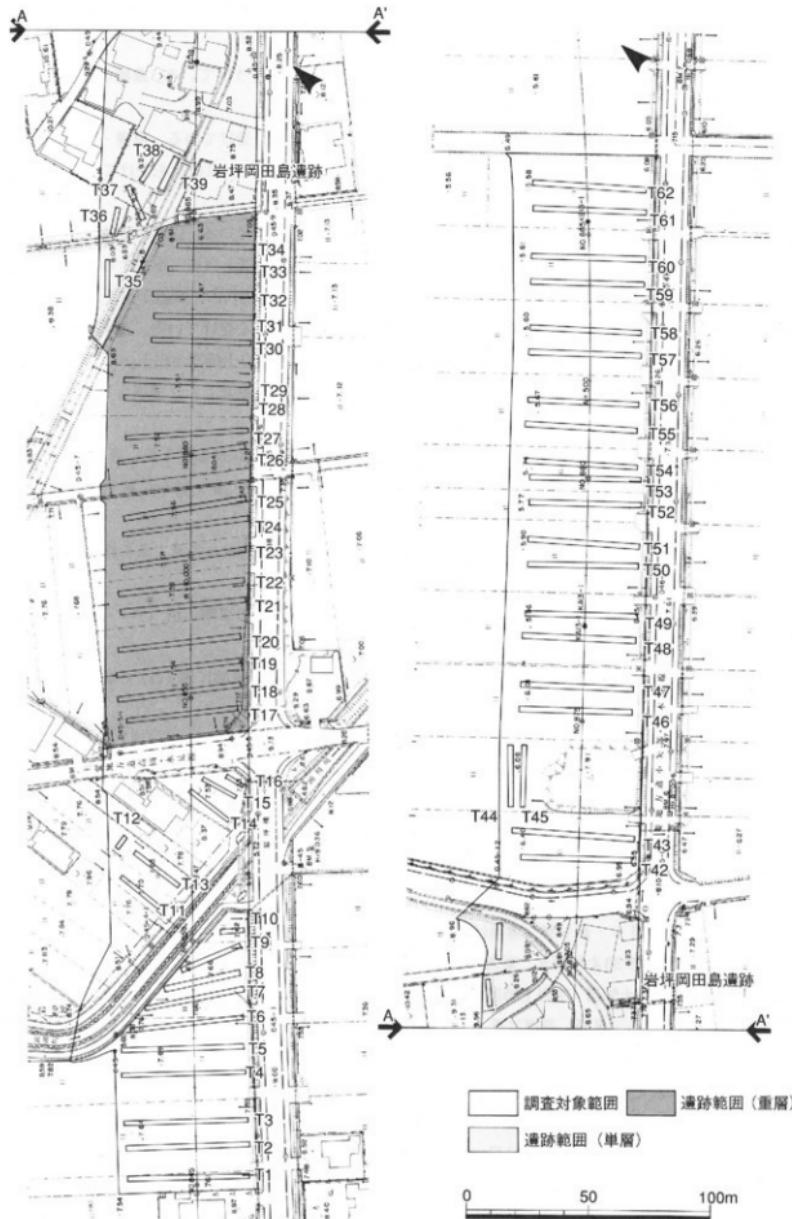
V層は地山で、主にオリーブ灰色砂である。T12からT34にかけて分布している。(深堀)

(3) トレンチの調査状況

- T 1 層序はI a・I b・I c層。遺構・遺物なし。
- T 2 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I b層から近世陶磁器、I c層から中世土師器が出土。
- T 3 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から中世土師器が出土。
- T 4 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I a層と排水管から近世陶磁器が出土。
- T 5 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から近世陶磁器・中世土師器が出土。
- T 6 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I b層から弥生土器、I c層から弥生土器・土師器が出土。
- T 7 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から近世陶磁器が出土。
- T 8 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から肥前系磁器が出土。
- T 9 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から土師器が出土。
- T 10 層序はI a・I b・I c層。遺構なし。I c層から上師器が出土。
- T 11 層序はI a・I b・II b・IV層。IV層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。
- T 12 層序はI a・I b・II b・IV層。遺構・遺物なし。
- T 13 層序はI a・I b・II b・IV層。IV層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。
- T 14 層序はI a・I b・II b・IV層。IV層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。
- T 15 層序はI a・I b・II b・IV層。IV層面で埋没旧河道の肩を検出する。遺構・遺物なし。
- T 16 層序はI a・I b層。遺構・遺物なし。
- T 17 層序はI a・I b・II b・III a・IV層。遺構なし。II b層から土師器が出土。
- T 18 層序はI a・I b・II b・III a・IV層。深掘り部分からV層を確認した。遺構なし。III a層から古代の上師器が出土。
- T 19 層序はI a・I b・II b・III a・IV層。遺構なし。III a層から古代の土師器が出土。
- T 20 層序はI a・I b・II b・III a・IV層。深掘り部分からV層を確認した。遺構なし。II b層から古代の土師器が出土。
- T 21 層序はI a・I b・III a・IV層。遺構なし。II b層とIII a層から古代の土師器が出土。

順序	分布	土色・質	性質	層序	分類	土色・質	性質
I a	全域	中等褐色 (5YV4/6) 灰色 (5Y4/1) 同 (5Y4/1,5YV1/1)	シルト 砂質ローム シルト	現代 耕作土	I a 144~ 160	灰灰褐色 (10YR4/2) 灰 (10Y6/1) 同 (5Y5/1)	粘土質ローム 砂 シルト
	同	オリーブ褐色 (5Y3/2) 黄褐色 (2,5Y4/1) 同 (2,5Y4/1)	シルト シルト質ローム シルト		同 (10Y4/1,10YS1/1,7,5Y4/1)	粘土質ローム シルト質ローム (5Y3/2)	粘土質ローム シルト
	同	堆積褐色 (2,5Y4/2) 同 (2,5Y4/2)	砂質ローム シルト 粘土質ローム		II b 110~	灰褐色 (5Y4/1) 同 (5Y4/1)	粘土質ローム シルト
	同	同	同		120~	灰褐色 (5Y4/1,5Y5/1,7,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同	同		140~	黑褐色 (2,5Y3/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T1~	灰色 (7,5Y5/1) 同 (10Y4/1,10YS1/1,7,5Y4/1)	砂質ローム シルト質ローム	現代 水田廻土	150~	堆積褐色 (2,5Y4/1,2,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T2~	同 (5Y4/1,5Y5/1,7,5Y4/1)	シルト		160~	堆積褐色 (2,5Y4/2,2,5Y5/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	(7,5Y4/1,7,5Y5/1,10Y4/1,5Y4/1)	砂質ローム シルト		170~	堆積褐色 (2,5Y4/1,2,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同	同		180~	堆積褐色 (2,5Y4/2,2,5Y5/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同	同		190~	堆積褐色 (2,5Y4/1,2,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
I b	T1~	灰色 (7,5Y5/1) 同 (10Y4/1,10YS1/1,7,5Y4/1)	砂質ローム シルト質ローム シルト	Ⅱ 耕作土	200~	灰褐色 (5Y4/1) 同 (5Y4/1)	粘土質ローム シルト
	T2~	同 (5Y4/1,5Y5/1,7,5Y4/1)	シルト		210~	灰褐色 (5Y4/1,5Y5/1,7,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	(7,5Y4/1,7,5Y5/1,10Y4/1,5Y4/1)	砂質ローム シルト		220~	灰褐色 (2,5Y4/1,2,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同	同		230~	灰褐色 (2,5Y4/2,2,5Y5/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同	同		240~	堆積褐色 (2,5Y4/1,2,5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T1~	灰色 (7,5Y5/1) 同 (10Y4/1,10YS1/1)	砂質ローム シルト	Ⅲ 耕作土	250~	灰褐色 (5Y5/1,7,5Y5/1)	粘土質ローム シルト
	T2~	同 (5Y4/1)	シルト		260~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同 (5Y4/1)	シルト		270~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同 (5Y4/1)	シルト		280~	堆積褐色 (2,5Y4/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	同	同 (5Y4/2)	シルト		290~	堆積褐色 (2,5Y4/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
I c	T1~	灰色 (10Y4/1,10YS1/1)	砂	Ⅳ 耕作土	300~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム シルト
	T11	同 (7,5Y4/1)	ローム		310~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T12	同 (5Y4/1)	粘土		320~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T14	堆積黄色 (2,5Y4/2)	シルト		330~	堆積黄色 (2,5Y5/2)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T15	同 (2,5Y4/2)	シルト		340~	堆積黄色 (2,5Y5/3)	粘土質ローム 粘土質ローム
II	T1~	灰色 (10Y4/1,10YS1/1)	砂	Ⅴ 耕作土	350~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T11	同 (7,5Y4/1)	ローム		360~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T12	同 (5Y4/1)	粘土		370~	灰褐色 (5Y5/1)	粘土質ローム 粘土質ローム
	T14	堆積黄色 (2,5Y4/2)	シルト		380~	堆積黄色 (2,5Y5/2)	粘土質ローム 粘土質ローム

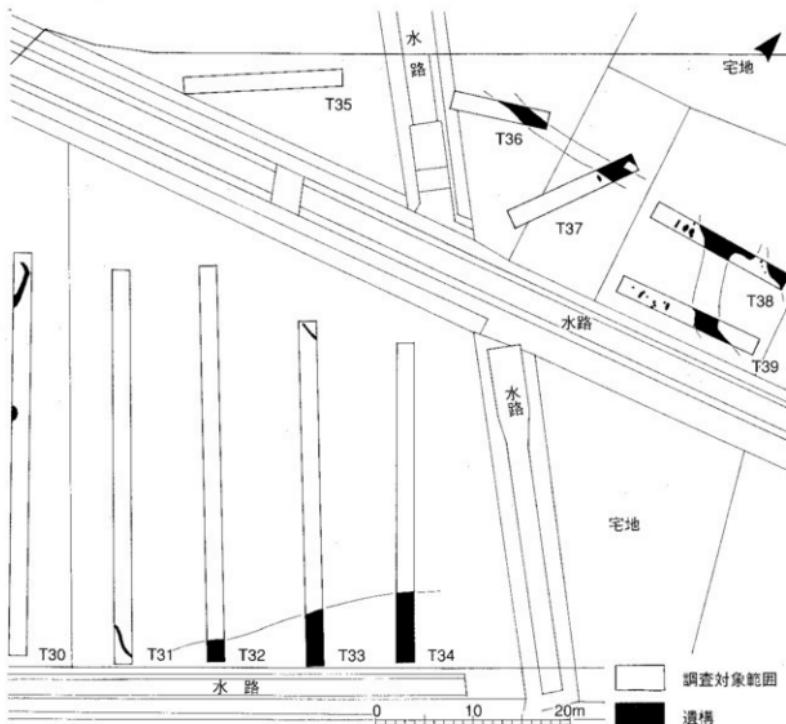
第4表 NE J-11基本層序観察表



第9図 NE J-11 トレンチの位置 (1 : 2,000)

- T 22 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。深掘り部分から V 層も確認した。遺構なし。I b 層から越中瀬戸、II b 層と III a 層から古代の土師器が出土。
- T 23 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。トレンチ西端は搅乱をうけている。遺構なし。III a 層から古代の土師器が出土。
- T 24 層序は I a · I b · II b · IV 層。トレンチ中央の一部が搅乱を受けている。遺構・遺物なし。
- T 25 I a 層の下に I b 層が 1.5 m 以上堆積する。トレンチ中央から東側は搅乱を受けている。遺構・遺物なし。
- T 26 I a · I b 層の下に搅乱土がある。トレンチ全面が搅乱を受けている。遺構・遺物なし。
- T 27 I a · I b 層の下に搅乱土がある。トレンチの東端にのみ III a 層と IV 層が堆積するほかは搅乱を受けている。遺構なし。I b 層から越中瀬戸・瀬戸・中世土師器・古代の土師器が出土。
- T 28 層序は I a · I b · III a · IV 層。トレンチ中央部の一部が搅乱を受けている。遺構なし。I a 層から肥前磁器、I b 層から珠洲・古代の土師器、IV 層上面から古代の土師器が出土。
- T 29 層序は I a · I b · II b · III a · IV 层。深掘り部分から V 層も確認した。遺構なし。II b 層から越中瀬戸、II b 層と III a 層から古代の土師器が出土。
- T 30 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。遺構は III a 層上面で幅 40cm の溝 1 条、直径 1.6 m の上坑 1 基、直径 25cm の小穴 1 基を検出。遺物は溝内から古代の土師器、II b 層から珠洲・中国製白磁・古代の土師器が出土。
- T 31 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。遺構は III a 層上面で幅 20cm の溝 1 条を検出。II b 層から珠洲・中世土師器が出土。
- T 32 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。III a 層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩を検出。II b 層から古代の土師器が出土。
- T 33 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。III a 層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩、西端に幅約 20cm の溝 1 条を検出。II b 層から古代の土師器が出土。
- T 34 層序は I a · I b · II b · III a · IV 層。III a 層上面でトレンチ東端に溝（谷）の肩を検出。I b 層から珠洲・古代の土師器、II b 層から珠洲・古代の土師器が出土。
- T 35 層序は I · III 層。遺構なし。I 層から土師器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・近世陶磁器が出土。
- T 36 層序は I · II b · III b 層。遺構は III a 層上面で、幅約 1.5 m の溝 1 条を検出。T 37 の溝へ続く。I 層から須恵器・中世土師器・珠洲・越中瀬戸・肥前磁器、II 層から須恵器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。
- T 37 層序は I · II b · III b 層。遺構は III a 層上面で溝 2 条と直径 60cm の上坑 1 基を検出。そのうち幅約 1.8 m の溝は T 36 より続き、東西方向に流れる。もう一条は調査区端から検出され、幅は不明。II b 層から須恵器・十師器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。
- T 38 層序は I · II · III 層。遺構は III a 層上面で溝 2 条、直径 20cm 前後の小穴 6 基を検出。そのうち幅約 2.8 m の溝 1 条は T 39 の溝へ続く。もう一条の溝は調査区端で検出され、幅は不明。I 層から越中瀬戸・近世陶磁器、II 層から須恵器・土師器・中世土師器・珠洲が出土。特に珠洲の破片が多く出土している。
- T 39 層序は I · II · III 層。遺構は III a 層上面で、T 38 より続く幅約 2.5 m の溝 1 条、直径 80cm の土坑 1 基、10~30cm の小穴 11 基を検出。溝内から青磁、II 層から土師器・内黒土師器・中世土師器・珠洲が出土。

- T 40 層序は I・III層。遺構面の直上が耕作土である。遺構は III a 層上面で幅20cmのT字状の溝1条、直径20cm前後の小穴2基を検出。I層から土師器・珠洲・近世陶磁器・砥石片が出土。
- T 41 層序は I・III層。遺構なし。I層から土師器・珠洲・肥前磁器が出土。
- T 42 層序は I a・I b・II b・III b層。ここから北のトレンチは埋没旧河道である。現況の標高はT 41から3m下がる。遺構なし。I b層から近世陶磁器・土師器、II b層から上師器が出土。
- T 43 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構なし。II b層から土師器が出土。
- T 44 層序は I a・I b・II a・III b・III c層。遺構なし。I a層から須恵器が出土。
- T 45 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構・遺物なし。なお、隣接地から須恵器を表探した。
- T 46 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構なし。I b層から土師器が出土。
- T 47 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構・遺物なし。
- T 48 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構・遺物なし。
- T 49 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構・遺物なし。
- T 50 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構・遺物なし。
- T 51 層序は I a・I b・II b・III b層。遺構なし。I b層から近代磁器が出土。
- T 52 層序は I a・I b・II b・III b層。トレンチの中心から東に向かって一段下がった地形にな



第10図 NE J-11遺構概略図 (1:500)

っており、ここより北のトレンチではこの地形が続く。遺構・遺物なし。

T 53 層序は I a · I b · II a · III c 層。トレンチの西端 5 m 付近から一段下がった地形になっている。遺構・遺物なし。

T 54 層序は I a · I b · II a 層。遺構なし。II a 層から越中瀬戸が出土。

T 55 層序は I a · I b · II a 層。東端に深さ 1 m 以上の搅乱がある。遺構なし。I b 層から越中瀬戸が出土。

T 56 層序は I a · I b · II a 層。I b 層の間に近現代の溝 2 条がある。遺物なし。

T 57 層序は I a · I b · II a 層。遺構なし。I b 層から京焼系陶器が出土。

T 58 層序は I a · I b · II a 層。遺構なし。II a 層から肥前系磁器が出土。

T 59 層序は I a · I b · II a 層。遺構なし。I b 層から肥前系磁器が出土。

T 60 層序は I a · I b · II a 層。遺構・遺物なし。

T 61 層序は I a · I b · II a 層。遺構・遺物なし。

T 62 層序は I a · I b · II a 層。遺構・遺物なし。

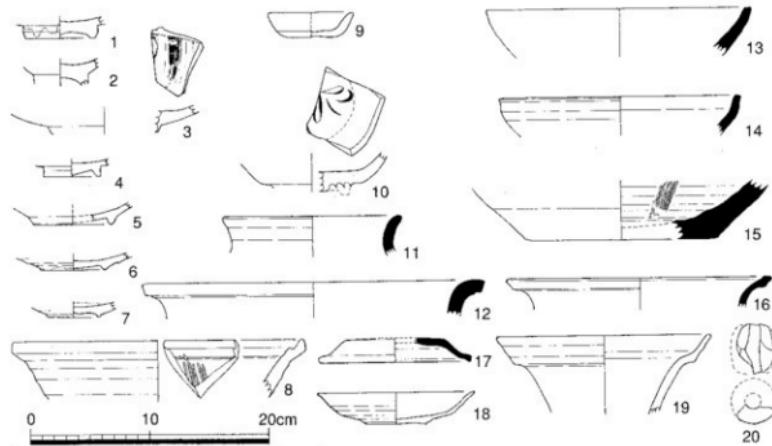
(深堀)

(4) 出土遺物 (第11図・写真図版9)

遺物は近世陶磁器、中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・輸入陶磁器、土師器・須恵器、弥生土器、土鍤が出土した。

近世 1～8 は近世陶磁器。1 は志野釉の唐津碗。2 は京焼系の楕。3 は内面に刷毛目を施した唐津の皿。4 は越中瀬戸の天目楕。5～7 は越中瀬戸の皿。8 は越中瀬戸の擂鉢である。1 は T 35、2 は T 57、3 は T 3、4 は T 37、5 は T 38、6 は T 27、7 は T 30、8 は T 38 から出土した。近世陶磁器は調査対象地内全体から出土しているが、大部分が I 層からである。

中世 9～15 は中世の遺物である。9 は非ロクロの中世土師器。13～14 世紀のものである [越前 1996]。10 は龍泉窯系の青磁碗。見込みに文様が施される。T 39 の溝から出土した。11～15 は珠洲。11・12 は壺、13・14 は鉢、15 は擂鉢。時期は I～II 期である [吉岡 1994]。なお、図示していない



第11図 NE J-11出土遺物実測図 (1:4)

が、底部に墨痕が残る珠洲がT39から出土した。9はT31、11はT38、12はT36、13はT38、14はT34、15はT36から出土した。中世の遺物はⅡ b層を中心に出土している。

古代 16～18は古代の遺物。16は須恵器の壺。17は須恵器の杯蓋で、9世紀頃のものである〔池野1996〕。18は土師器の碗。成形はロクロナデ、底部は回転糸切りである。10世紀末から11世紀初め頃のものである〔出越1997〕。16はT37、18はT29から出土した。17はT45隣接地からの表採である。古代の遺物はⅡ b層からも出土するが、Ⅲ a層を中心に出土している。

その他、19は弥生土器壺である。終末期のものと考えられる。T6の埋没旧河道から出土しており、表面は磨耗している。20は土鍤である。T31から出土した。表面は著しく摩耗している。(中野)

(5) 小括

調査の結果、調査対象地の中央で、古代から中世の遺跡の広がりを確認した。T17からT29には中世の遺物包含層と古代の遺物包含層、T30からT34には中世の遺構検出面と古代の遺物包含層、T35からT41には中世の遺構面が存在している。またT11からT15で埋没旧河道の肩を確認し、旧河川堆積上の分布から、T1からT16、およびT42からT62は埋没旧河道であることを確認した。なおT23からT28にかけては、部分的に搅乱を受けている。

以下、上層と下層に分けてまとめてみる。

上層 上層の遺構はT30からT34、T36からT40のⅢ a層上面で確認した。遺構は溝、土坑、小穴である。特にT38・39・40には柱穴かと考えられる小穴を検出しており、建物が存在し、集落が立地する可能性がある。またT32からT34の東では溝（谷？）の肩が検出されている。遺物は、遺物包含層であるⅡ b層から須恵器・中世土師器・珠洲などが多数出土している。T17からT23にかけては、遺構・遺物ともに検出されなかったが、遺構検出面であるⅢ a層が同様に広がっており、遺構がある可能性が考えられる。また、プラント・オパール分析の結果から、Ⅱ b層に水田が立地する可能性が指摘されたので、中世以降の水田があると考えられる。

下層 下層の遺構は検出していないが、T17からT34にかけて、遺物包含層であるⅢ a層から古代の土師器が出土している。プラント・オパール分析の結果、Ⅳ層面に水田が立地していた可能性が高いことが確認された。Ⅲ a層からの遺物の出土とあわせて、Ⅳ層面を遺構面として、古代以前の水田が存在する可能性が考えられる。古代以前の水田があるとすれば、今回の調査対象地付近は東大寺領莊園「須加村望田地」に比定されているので、これと同時期の水田となり、両者の関係を考えなければならないだろう。

以上の結果から、遺跡の範囲は埋没旧河道に挟まれたT17からT41であると考えられる。調査対象地内の遺跡面積は、延長約333m・幅約60mで約19,980m²である。また、古代と中世の2面が重なっている範囲の面積は約12,220m²である。延べ面積は約32,200m²となる。遺跡の名称はNEJ-11を改め、付近の字名から新たに岩坪岡田島遺跡とした。(深堀)

IV プラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

この調査は、NEJ-11埋蔵文化財包蔵地（能越自動車道建設路線）において、発掘調査に先立ち埋蔵水田跡の探査を目的にプラント・オパール分析を行ったものである。

2. 試料

調査地点は、調査区内に掘削された試掘坑およびトレンチであり、南西側より順に設定されたNo.1～No.28の計28地点である（図1）。調査区の基本土層は、上位より暗灰黄色粘土およびオリーブ黒色シルト（I a層、現水田）、灰色粘土および橙色シルト（I b層、客土）、青灰～灰色シルト（I c層）、灰色粘質土（II a層）、暗灰黄色～黒褐色粘質土（II b層）、黄灰色粘質土（III a層）、灰色シルト（III b層）、灰黄色粘質土（IV層）、オリーブ灰色砂（V層）である。分析試料は、各地点とも試掘坑およびトレンチの壁面より採取された。分析試料の一覧を第5表に示す。

3. 分析法

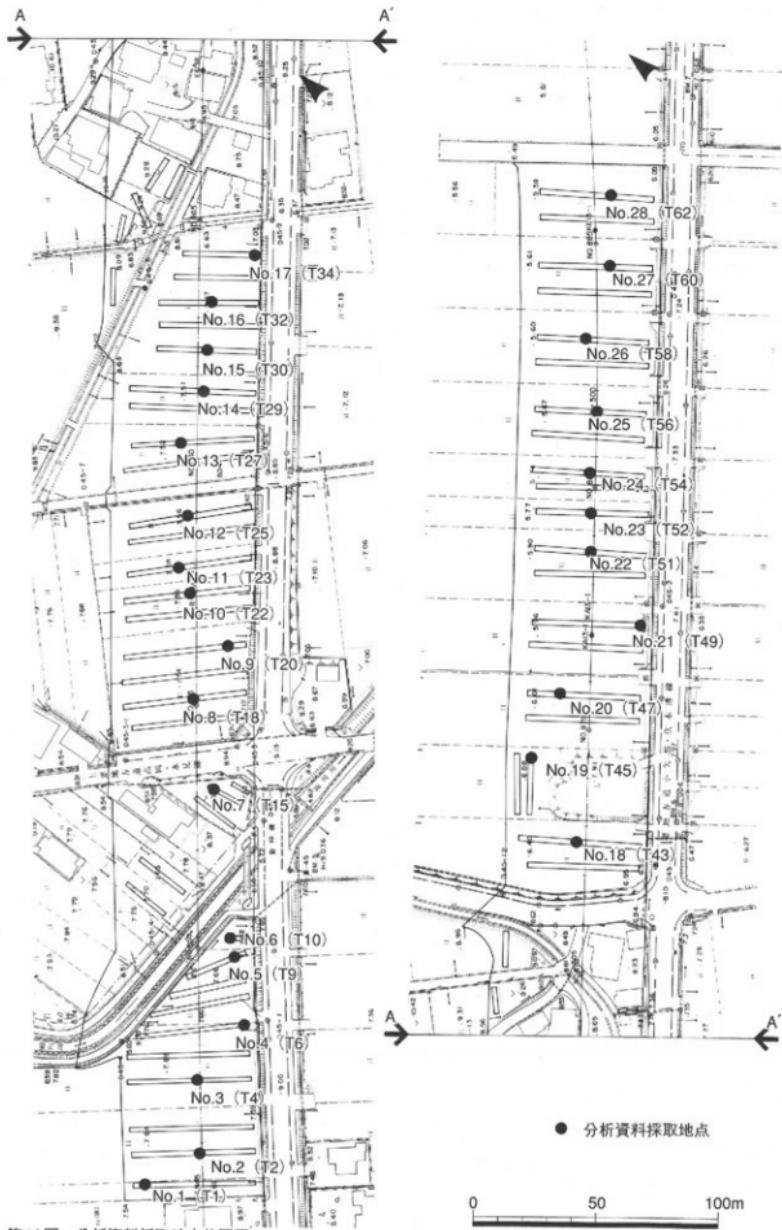
プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原、1976）」をもとに、次の手順で行った。

1) 試料上の絶乾（105°C・24時間）

2) 試料約1 gを秤量、ガラスピース添加（直径約40 μm、約0.02g）

地点	試料	地点	試料
No.1	I a層, I b層, I c層上中下3点	No.15	I a層, I b層, II b層, III a層, IV層
No.2	I a層上下2点, I b層上中下3点, I c層上下2点	No.16	I b層, II b層上下2点, III a層, IV層
No.3	I a層, I b層上中下2点, I c層上中下3点	No.17	I a層, I b層, II b層上下2点
No.4	I b層上下2点, I c層上中下3点	No.18	I a層, I b層上下2点, II b層, III b層
No.5	I b層上下2点, I c層上中下3点	No.19	I a層, II a層, III b層上中下3点
No.6	I c層上～下4点	No.20	I a層, I b層, II a層上下2点, III b層
No.7	I a層, I b層, II b層, IV層上下2点	No.21	I a層, I b層上中下3点, III b層上下2点
No.8	I b層上中下3点, II b層, III a層	No.22	I a層, I b層, II a層上下2点, III b層上下2点
No.9	I b層, II b層, III a層, IV層	No.23	I a層, I b層上下2点, II a層上下2点
No.10	I b層, II b層, III a層, IV層	No.24	I a層上下2点, I b層, II a層上下2点
No.11	I b層, II b層上下2点	No.25	I a層, I b層上下2点, II a層上下2点
No.12	I b層上～下5点	No.26	I a層, I b層上下2点, II a層
No.13	I b層上～下4点	No.27	I a層, I b層上中下3点, II a層上中下3点
No.14	I b層, II b層上～下4点, IV層, V層	No.28	I a層, I b層上～下4点, II a層

第5表 分析試料一覧



第12図 分析資料採取地点位置図

- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 ($20 \mu\text{m}$ 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞 (葉身にのみ形成される) に由来するプラント・オバール (以下、プラント・オバールと略す) を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数值を試料1g中のプラント・オバール個数 (試料1gあたりのガラスピーズ個数に、計数されたプラント・オバールとガラスピーズの個数の比率を乗じて求める) に換算して示した。また、主要な分類群については、この値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10-5g) を乗じて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、キビ族はヒエ、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はスキ、タケ亞科については数種の平均値を用いた。その値は、それぞれ2.94 (種実重は1.03)、8.40、6.31、1.24、0.48である (杉山・藤原、1987)。

4. 分析結果

採取された試料すべてについて分析を行った結果、イネ、ヨシ属、ウシクサ族 (スキ属型)、シバ属、タケ亞科のプラント・オバールが検出された。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表~第7表、第13図~第17図に示した。なお、主要な分類群については巻末に顕微鏡写真を示した。

5. 考察

(1) 稲作の可能性について

プラント・オバール分析により水田跡の調査 (探査あるいは検証) を行うにあたっては、イネのプラント・オバールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合、そこが稲作跡である可能性が高いと判断される。また、当該層においてプラント・オバール密度にピークが認められれば、上層からの混入の危険性は考えにくいことから、密度が基準値に満たなくても稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。これらのこととを基準として以下、各層ごとに稲作の可能性について検討を行う。なお、各地点における稲作跡の可能性を第8表にまとめる。

1) I a層とI b層

I a層およびI b層では、分析を行った地点のほぼすべてからイネのプラント・オバールが高い密度で検出されている。なお、I a層は現代の耕作土、I b層は現水田の客土であり、分析結果はこのことと良く符合している。

2) I c層

I c層は、No.1~No.7地点で堆積が認められ、No.1~No.6地点において分析を行った。その結果、No.2地点を除く各地点よりイネのプラント・オバールが検出された。このうち、No.3地点とNo.6地点ではプラント・オバール密度がそれぞれ2,100個/g、2,600個/gと比較的高い値である。このことから、両地点についてはI c層も耕作層であった可能性が考えられる。なお、No.1地点、No.4地点およびNo.5地点では1,000個/g弱の低密度であることから、これらの地点については耕作層であった可能性が考えられるものの、上層からの混入である危険性も否定できない。

3) II a層

II a層は、調査区北東部のNo.19地点、No.20地点、No.22～28地点で堆積が認められた。これらの地点について分析を行ったところ、イネのプラント・オパールはNo.19～No.25地点とNo.27地点において検出された。このうち、No.20地点とNo.22地点ではプラント・オパール密度がそれぞれ5,200個/g、12,400個/gと高い値である。また、No.19地点、No.24地点でも3,000個/g前後の比較的高い密度である。したがって、これらの地点ではII a層は耕作層であった可能性が高いと考えられる。

4) II b層

II b層は、No.7～No.11地点、No.14～No.18地点で堆積がみられた。これら各地点について分析を行った結果、No.9地点、No.11地点、No.14～No.18地点においてイネのプラント・オパールが検出された。このうち、No.9地点、No.11地点、No.14地点およびNo.16地点では、プラント・オパール密度が3,000個/g前後の比較的高い値である。よって、これらの地点ではII b層において稲作が行われていた可能性が考えられる。

5) III b層

III b層の堆積は、No.18～No.22地点で認められた。これら各地点について分析を行ったところ、No.18～No.21地点よりイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は、No.19地点では3,000個/g程度と比較的高いもののその他は低い値である。のことから、これらの地点のIII b層は耕作層であった可能性が考えられるが、No.19地点以外に関しては他所からプラント・オパールが混入したものと考えられる。

6) IV層

IV層は、No.7地点、No.9地点、No.10地点、No.14～No.16地点で堆積が認められた。イネのプラント・オパールは、No.9地点、No.10地点、No.14地点およびNo.16地点で検出された。このうち、No.14地点では7,000個/gと高い密度であることから、本地点については稲作跡である可能性が高いと考えられる。他の地点については、密度が1,000個/g未満と低いことから稲作の行われた可能性は考えられるものの、他所からの混入である危険性も否定できない。

7) III a層、V層

III a層は、No.8～No.10地点、No.15地点、No.16地点で、V層はNo.14地点で堆積が認められた。これらについて分析を行ったところ、イネのプラント・オパールはいずれの地点からも検出されなかった。したがって、III a層およびV層については稲作跡である可能性は考えにくい。

(2) その他の農耕の可能性について

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型（モロコシが含まれる）などがある。しかしながら、本遺跡ではこれらのプラント・オパールはいずれからも検出されておらず、稲作以外の農耕が行われていた可能性については不明である。ただし、イネ科植物の中には未検討のものもあるため、同定できなかったものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、プラント・オパール分析で同定が可能なものは多くがイネ科の草本植物であることから、マメ類、イモ類および野菜類などは分析の対象外である。

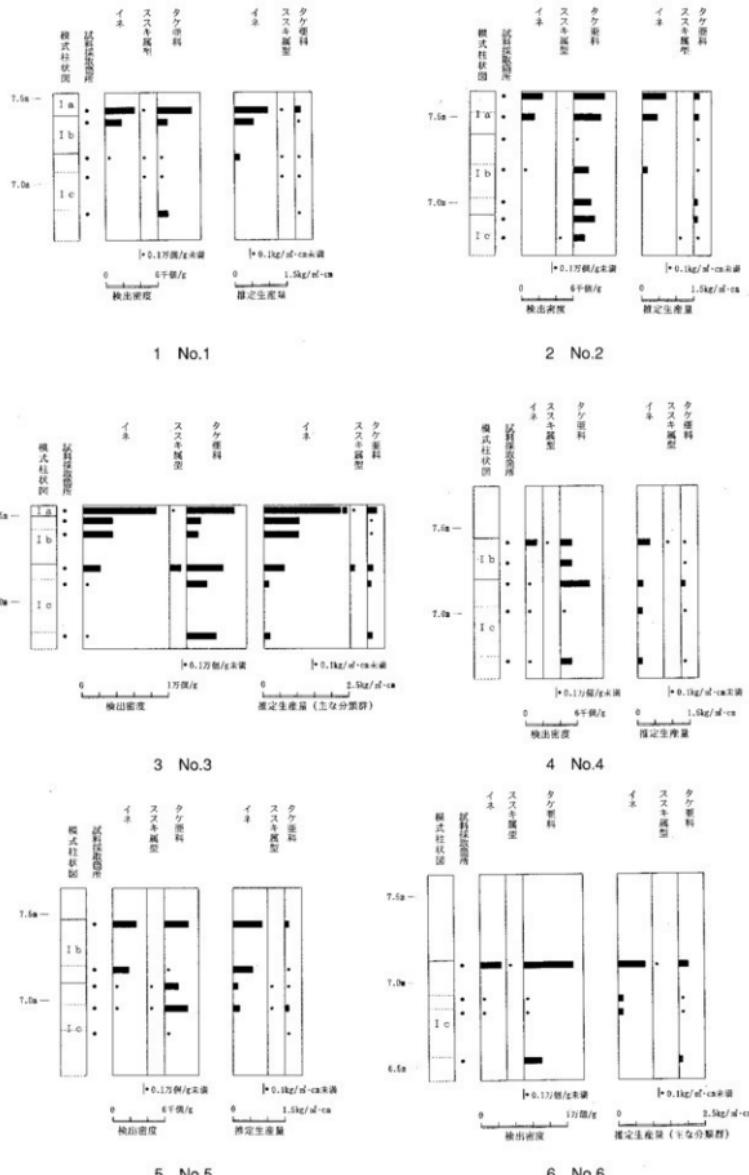
6.まとめ

NEJ-11においてプラント・オパール分析を行い、稲作跡の探査を試みた。その結果、現水田

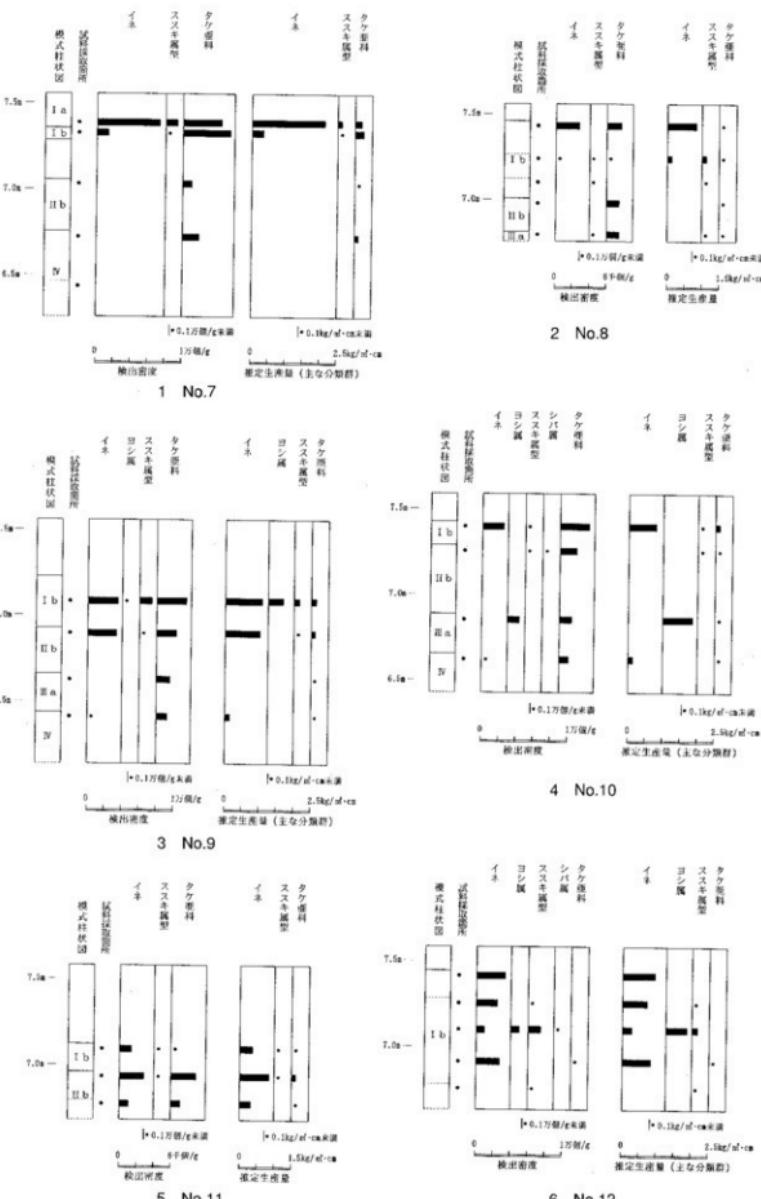
の下位では、No.3地点およびNo.6地点付近のⅠc層、No.19～No.27地点一帯のⅡa層、No.9～No.18地点一帯のⅡb層、No.19地点辺りのⅢb層およびNo.14地点辺りのⅣ層において稻作が行われていた可能性が認められた。
(松田隆二)

参考文献

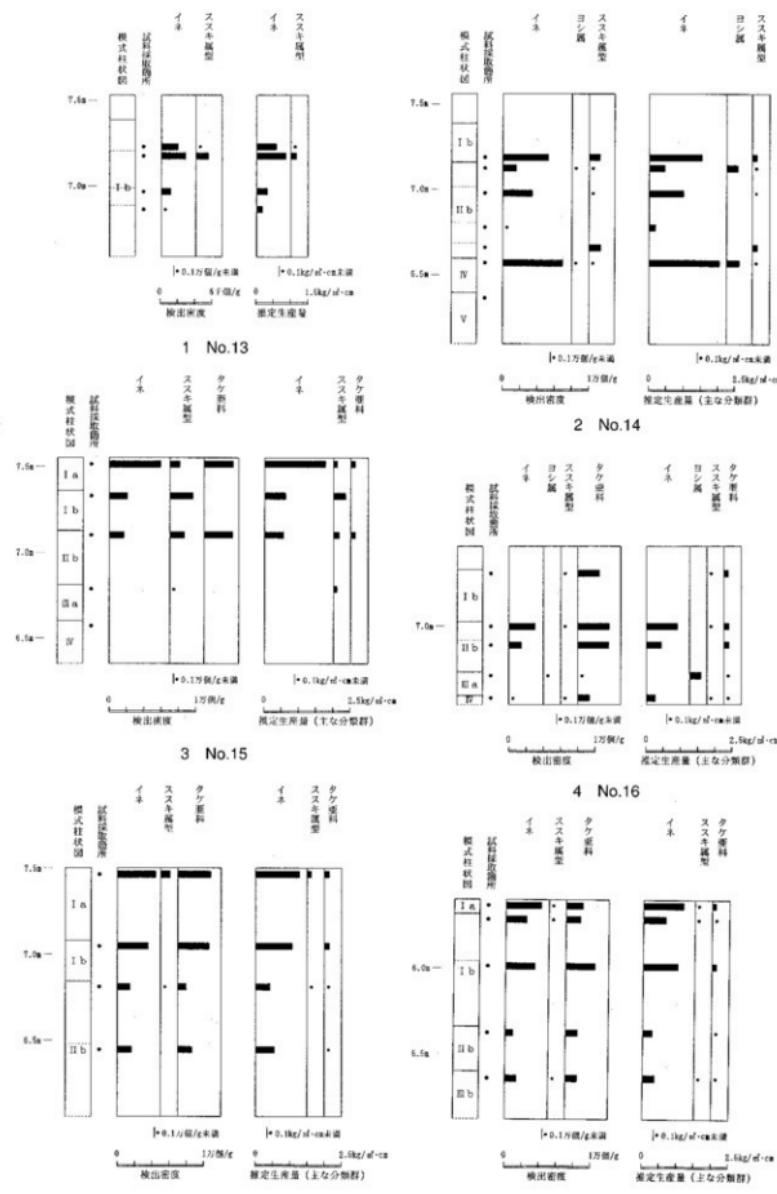
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追求のための基礎資料として—、考古学と自然科学、20:81-92.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9:15-29.
- 藤原宏志（1979）プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（*O.sativa L.*）生産総量の推定—、考古学と自然科学、12:29-41.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17:73-85.



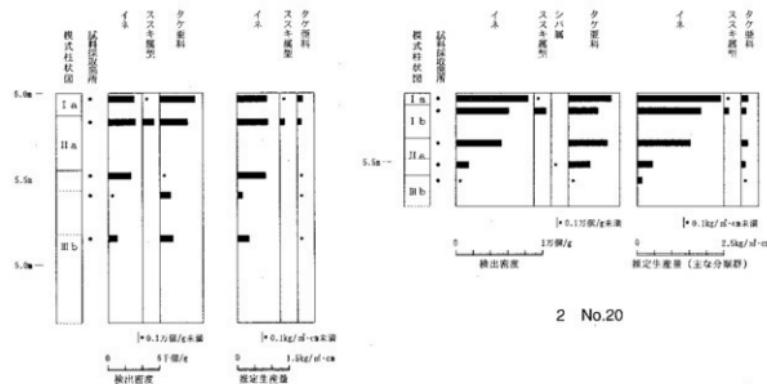
第13図 プラント・オパール分析結果(1), (※主な分類群について表示)



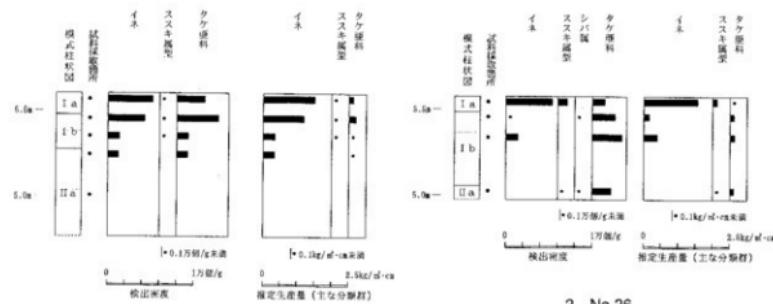
第14図 プラント・オパール分析結果 (2). (※主な分類群について表示)



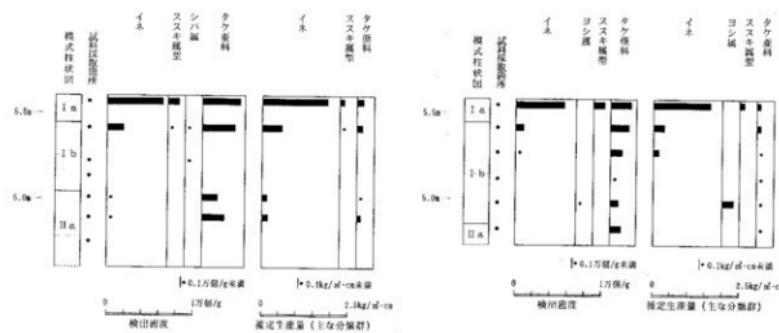
第15図 プラント・オパール分析結果(3), (※主な分類群について表示)



第16図 プラント・オバール分析結果(4), (※主な分類群について表示)



1 No.25



3 No.27

2 No.26

4 No.28

第17図 プラント・オパール分析結果(5), (※主な分類群について表示)

地点	I a層	I b層	I c層	II a層	II b層	III a層	III b層	IV層	V層
No.1	△	△	△	—	—	—	—	—	—
No.2	△	△	×	—	—	—	—	—	—
No.3	○	△	△	—	—	—	—	—	—
No.4	—	△	△	—	—	—	—	—	—
No.5	—	△	△	—	—	—	—	—	—
No.6	—	—	△	—	—	—	—	—	—
No.7	○	△	—	—	×	—	—	×	—
No.8	—	△	—	—	×	×	—	—	—
No.9	—	△	—	—	△	×	—	△	—
No.10	—	△	—	—	×	×	—	△	—
No.11	—	△	—	—	△	—	—	—	—
No.12	—	△	—	—	—	—	—	—	—
No.13	—	△	—	—	—	—	—	—	—
No.14	—	○	—	—	△	—	—	○	×
No.15	○	△	—	—	△	×	—	×	—
No.16	—	×	—	—	△	×	—	△	—
No.17	△	△	—	—	△	—	—	—	—
No.18	△	△	—	—	△	—	△	—	—
No.19	△	—	—	△	—	—	△	—	—
No.20	○	○	—	○	—	—	△	—	—
No.21	○	△	—	—	—	—	△	—	—
No.22	○	△	—	○	—	—	×	—	—
No.23	△	△	—	△	—	—	—	—	—
No.24	△	△	—	△	—	—	—	—	—
No.25	○	△	—	△	—	—	—	—	—
No.26	○	△	—	×	—	—	—	—	—
No.27	○	△	—	△	—	—	—	—	—
No.28	○	△	—	×	—	—	—	—	—

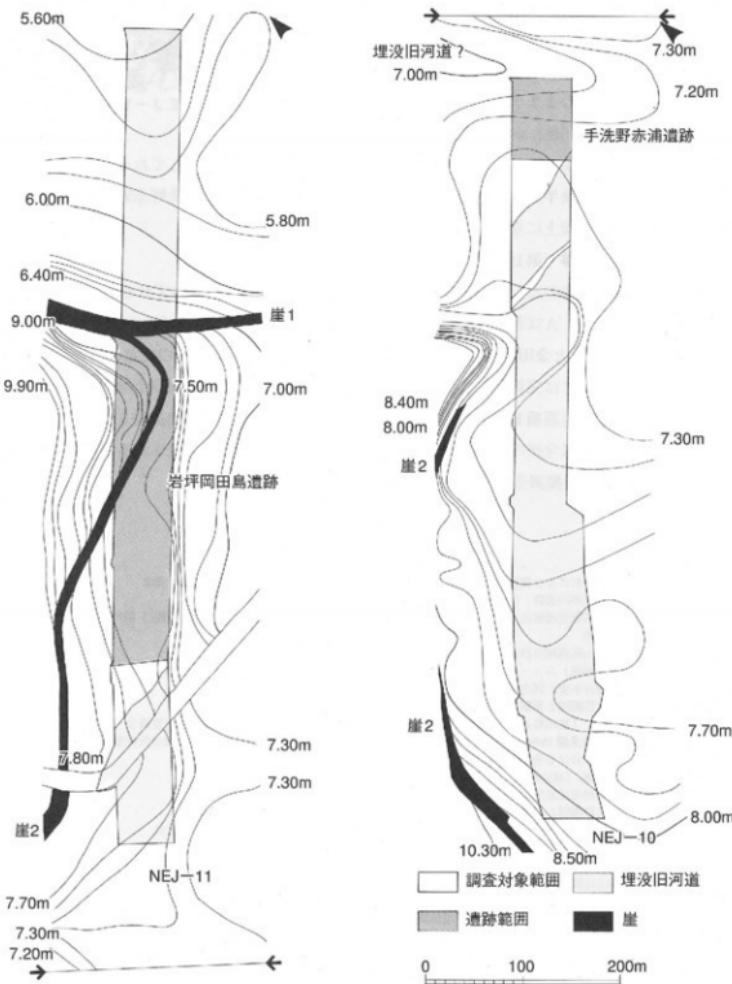
○：稲作跡の可能性が高い、△：稲作跡の可能性がある、×：稲作跡の可能性は認められない、—：該当層が堆積していない

第8表 各地点における稲作跡の可能性

V 調査の成果と課題

1 微地形と遺跡の立地 (第18図、図版2・3)

今回の調査ではNEJ-10で手洗野赤浦遺跡、NEJ-11で岩坪岡田島遺跡をそれぞれ確認した。また旧埋没河道も5箇所確認した。遺跡と地形は、言うまでもなく密接に関係していると考えられるが、以前はあまり発掘調査には活かされている状態とは言えなかった。近年、高橋学氏はこの点について多くの研究成果を掲げている。その手法は地形環境分析を行い、景観の変遷史を構築するという



第18図 NEJ-10・NEJ-11周辺微地形図

ものである【高橋1996等】。ここでは能力不足のため、高橋氏と同様に行うことはできないが、微地形(10cmの等高線図)を作成したものが第18図である。これをみると1~3m差の等高線の繋がらない崖が2カ所みられる。一体となっていた崖1と崖2はNEJ-11の中央やや北で東と南に分岐している。崖1は現在は道路、崖2が水路でそれぞれ傾斜変換点である崖の上に作られたと思われる。この崖は筆者の勝手な解釈だが高橋氏の地形分類の段丘崖に当たると思われる。崖1の北はそのまま小矢部川にいたり、崖2の西は丘陵(急傾斜地)か平坦な面が続いている。

ている。のことから崖1の北は現氾濫原面、南は完新世段丘Ⅱ面と推測しておく。高橋氏によれば完新世段丘Ⅱ面は古代後半から中世初頭の形成とされる。今回確認した手洗野赤浦遺跡・岩坪岡田島遺跡とも完新世段丘Ⅱ面上に立地することとなる。

2 須加村墾田地と遺跡(第19図)

須加村の比定地は現在のところ3箇所がある【高瀬1976・吉川1996】。いずれも小矢部川左岸の西山丘陵沿いに位置する。Aは和田一郎氏らの比定地【和田1959】、Bは弥永氏らの比定地【弥永他1958】、Cは木倉豊信氏と金田章裕氏【金田1998】の比定地である。これらの比定地は前項で検討した地形的にみればAとCは完新世段丘面上、Bは現氾濫原面上である。条里型土地割は完新世段丘Ⅱ面上に残る場合が多い【高橋1996】とされる。従って今回調査の岩坪岡田島遺跡を含むAと須田藤ノ木遺跡を含む比定地では今後の発掘調査等で「須加村墾田地」の遺構が確認される可能性が高いと考えられる。この点は、発掘調査の課題として今後に期待したい。

(岡本)

引用・参考文献

- イ 池野正男 1996 「越中における9世紀代の土器様相」「北陸の9世紀代の土器様相」北陸古代時研究会
- ウ 上野 章 1974 「高岡市頭川遺跡」大境』第5号 富山考古学会
- エ 越前慎子 1996 「梅原胡塚遺跡出土中土師籠彌の編年」『梅原胡塚遺跡発掘調査報告(遺物編)』財團法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所
- オ 大野文郷編 1985 「富山県高岡市西山丘陵埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ」高岡市教育委員会
- 大橋康二 1988 「肥前陶磁」ニュー・サインズ社
- キ 京谷準一編 1966 「国吉小史」国吉小史刊行委員会
- 金田章裕 1998 「古代莊園圖と絆鏡」東京大学出版社
- サ 酒井重洋・逸見廣 1983 「富山県高岡市頭川城ヶ平横穴墓群第1次緊急発掘調査概要」高岡市教育委員会
- 酒井重洋・大野文郷・逸見廣 1984 「富山県高岡市頭川城ヶ平横穴墓群第2次発掘調査報告」高岡市教育委員会
- タ 高瀬重雄 1963 「越中における条里の研究」『越中史論』27
- 高瀬重雄 1976 「条里制」「富山県史」通史編I原始・古代・富山県
- 高瀬重雄編 1957 「高岡市江道横穴古墳群調査報告書」高岡市史料編纂委員会
- 高橋 学 1996 「古代莊園圖と自然環境」『日本古代莊園圖』東京大学出版社
- テ 出越茂和 1997 「北陸古代後半における燒・皿食器(後)」「北陸古代土器研究」北陸古代土器研究会
- ナ 永井久美男編 1994 「中世の出土��」兵庫埋蔵文化財調査会
- ヤ 弥永貞三・龜田勝之・新井喜久夫 1958 「越中国東大寺領庄園塗跡について」『純日本紀研究』五巻二号
- 山口辰一 1988 「西山丘陵埋蔵文化財分布調査報告Ⅴ」高岡市教育委員会
- 山口辰一 1993 「市内遺跡調査概報Ⅲ-平成3年度、柴野遺跡の調査他一」高岡市教育委員会
- 山口辰一 1997 「麻生谷遺跡・麻生谷新生園跡調査報告」『高岡市埋蔵文化財調査報告第1回』高岡市教育委員会
- 山口辰一・邑本順亮 1998 「市内遺跡調査概報Ⅳ-平成9年度麻生新生園跡の調査他一」高岡市教育委員会
- ヨ 吉岡康輔 1994 「中世須恵器の研究」吉岡弘文館
- 吉川敏子 1996 「越中国東大寺領庄園塗跡」「日本古代莊園圖」東京大学出版社
- ワ 和田一郎編 1959 「高岡市史」上巻 青林書院新社



第19図 NEJ-10・NEJ-11と須加村比定地



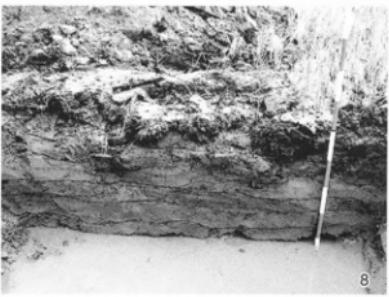
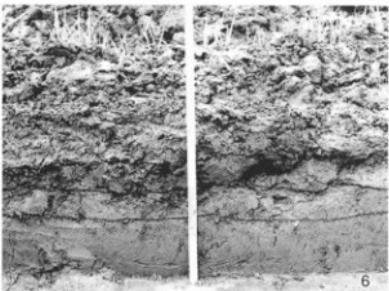
図版1 全景 1 南から 2 北から



図版2 航空写真 (1946年撮影)

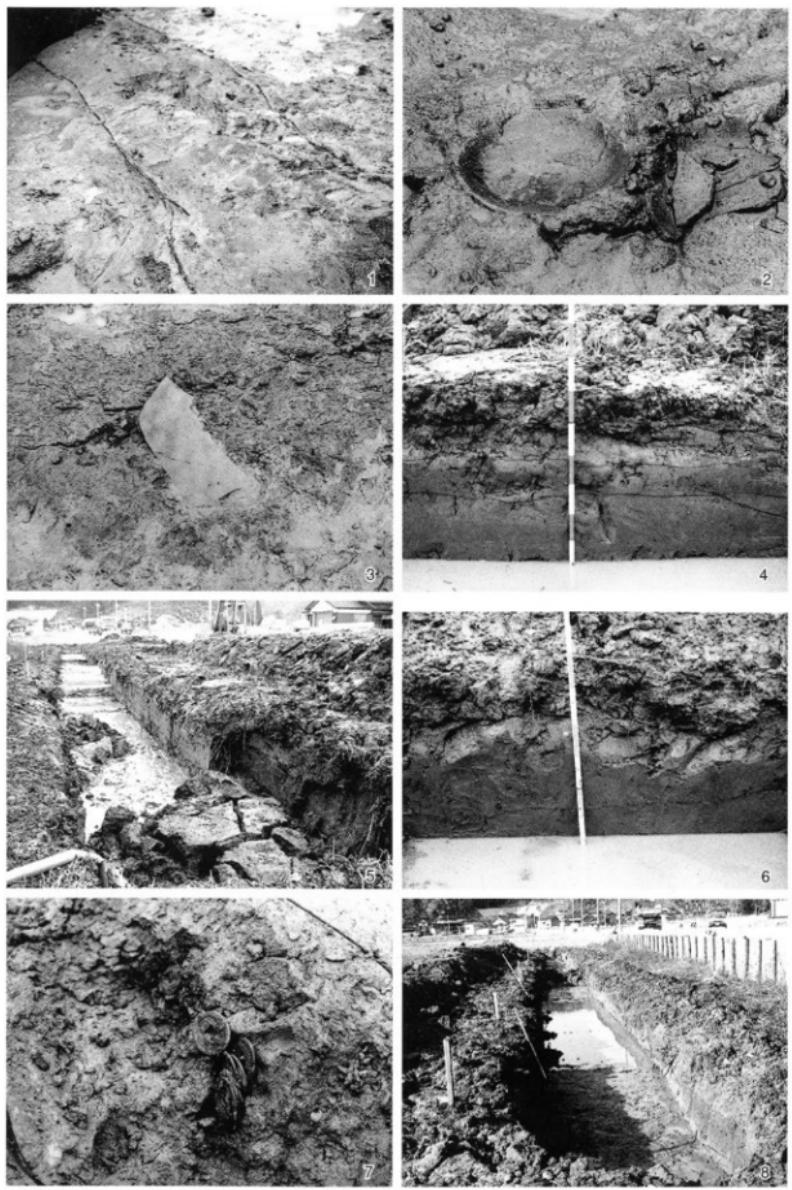


図版3 航空写真（1994年撮影）



図版4 作業風景・N E J - 10 1・2 作業風景

3 T 19 4 T 38 5・6 T 52 7・8 T 53



圖版5 N E J-10 1 T 53 2·3 T 53遺物出土狀況 4 T 54 5·6 T 55 7 T 55遺物出土狀況
8 T 56



5



6



7



12



13



14



15



16



17



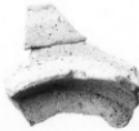
11



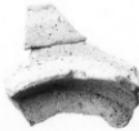
8



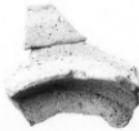
10



9



12



13



1

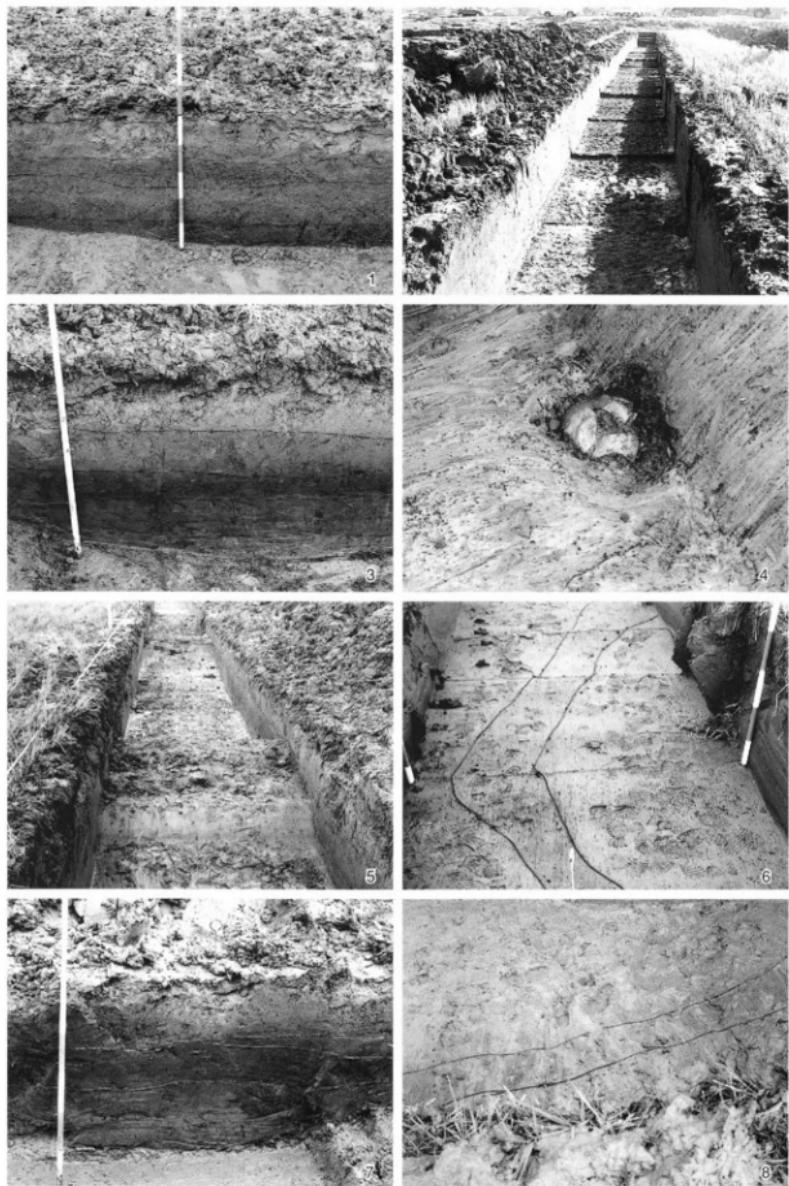


2



3

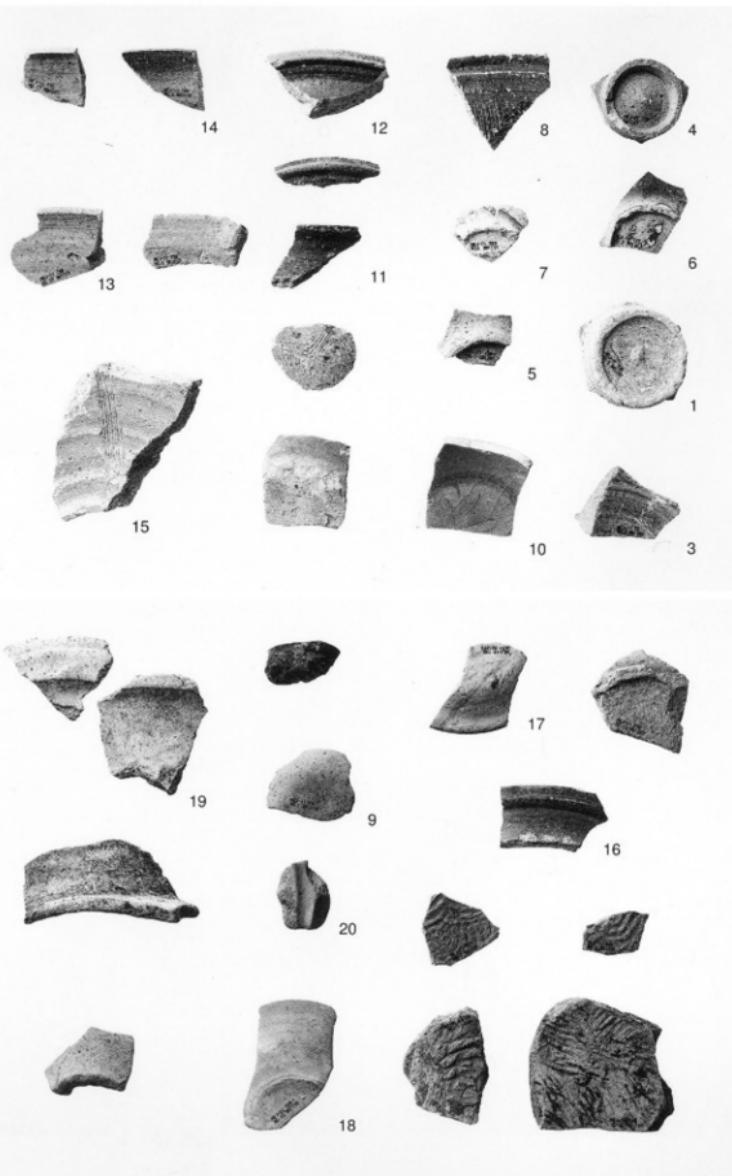
図版6 N E J-10出土遺物 (1:3, 写真中の番号は第7図と対応)



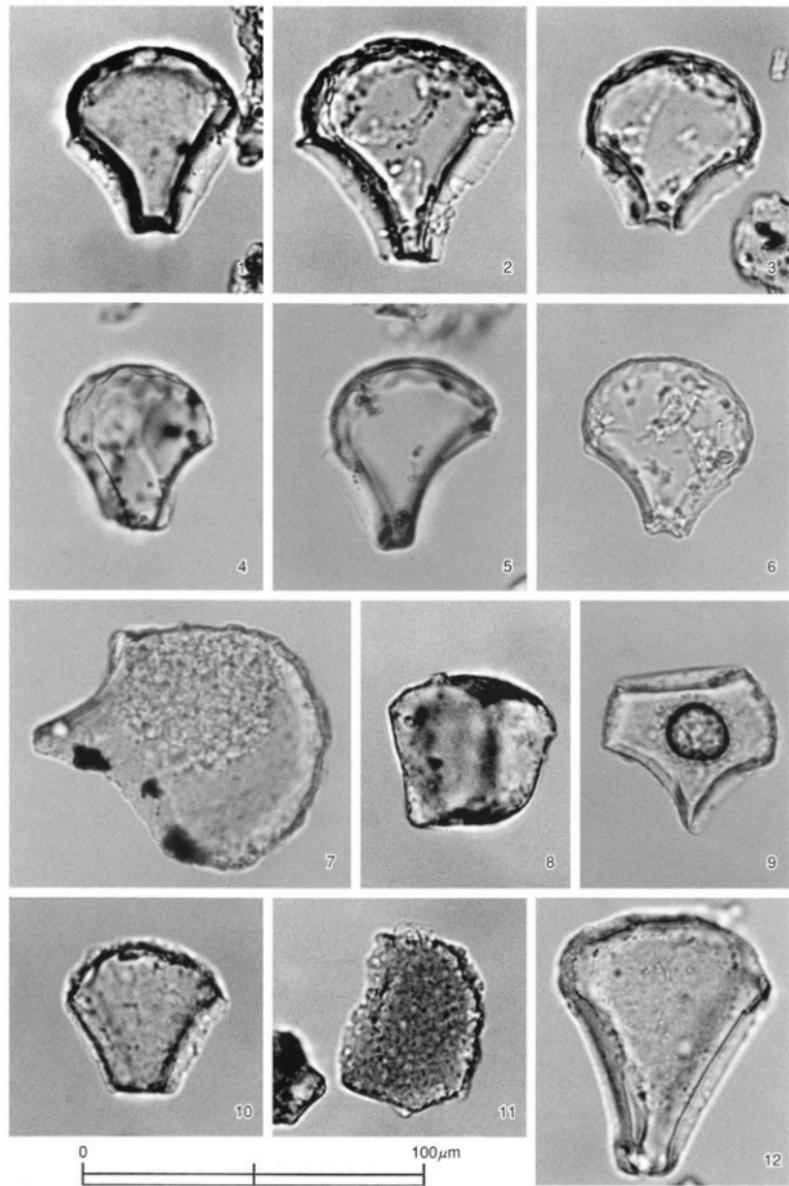
図版7 NE J-11 1 T 5 2 T 20 3 T 29 4 T 29遺物出土状況 5 T 30 6 T 30遺構
7 T 31 8 T 31遺構



図版8 NEJ-11 1 T 36遺構 2 T 37 3 T 37遺構 4 T 38 5 T 39 6 T 39遺物
出土状況 7 T 40 8 T 43



図版9 N E J-11出土遺物 (1:3, 写真中の番号は第11図と対応)



図版10 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真 1 イネ (No.3 Ia層) 2 イネ (No.6 Ic層)
 3 イネ (No.22 IIa層) 4 イネ (No.11 IIb層) 5 イネ (No.19 IIIb層) 6 イネ (No.14 IV層)
 7 ヨシ属 (No.10 IIIa層) 8 ウシクサ族 (スキ属) (No.14 IIb層) 9 シバ属 (No.10 IIb層) 10 タケ
 亞科 (ネザサ節型) (No.18 Ia層) 11 タケ亞科 (クマザサ属型) (No.18 Ia層) 12 ウシクサ族 (大型) (No.
 23 IIa層)

報告書抄録

ふりがな	のうえつじどうしゃどうかんけいまいぞうぶんかぎほうぞうちょうきほうこく					
書名	能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－NEJ-10・NEJ-11－					
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告					
シリーズ番号	第10集					
編著者名	岡本淳一郎、深堀義、中野由紀子、平井晶子、松田隆二					
編集機関	財團法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所					
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL0764-42-4229					
発行年月日	西暦1999年3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 調査原因
NEJ-10 <small>高岡市国吉</small>	市町村 高岡市国吉	遺跡番号 16202	北緯 232	東經 36° 45' 20"	136° 58' 04"	1998.11.24 1998.12.07 45,600 (対象 面積) <small>能越白山 車道跡の 付着物 に伴う試 掘調査</small>
NEJ-11 <small>高岡市国吉</small>	市町村 高岡市国吉	遺跡番号 16202	北緯 233	東經 36° 45' 42"	136° 58' 31"	1998.11.09 1998.12.12 46,800 (対象 面積) <small>能越白山 車道跡の 付着物 に伴う試 掘調査</small>
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
NEJ-10	集落	古代 中世 近世	溝	須恵器 中世土師器・珠洞 越中瀬戸・陶磁器	手洗野赤浦遺跡 とする	
NEJ-11	集落	弥生 古代 中世	溝・土坑・小穴	弥生土器 須恵器・土師器 輸入陶磁器・中世 上漆器・珠洞	岩井岡田島遺跡 とする	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第10集 能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告

—NEJ-10・NEJ-11—

編集・発行 財團法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL0764-42-4229

発行日 1999(平成11)年3月31日

印 刷 有限会社日本海印刷